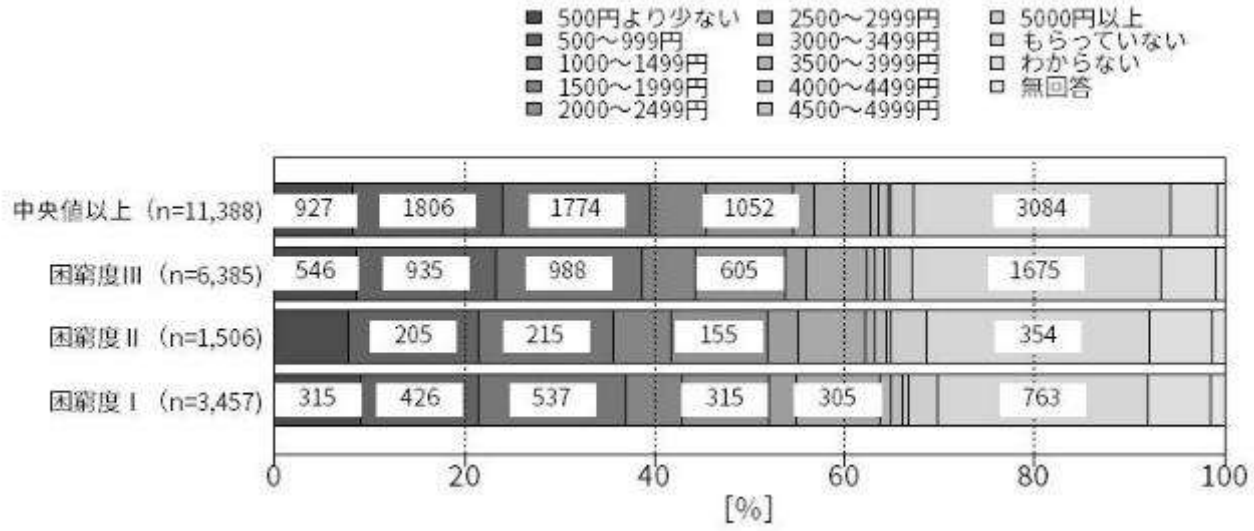
困窮度別に見た、おこづかいの金額分布（子ども票　問 20(1)）

＜大阪市 24 区＞



＜大阪市大正区＞

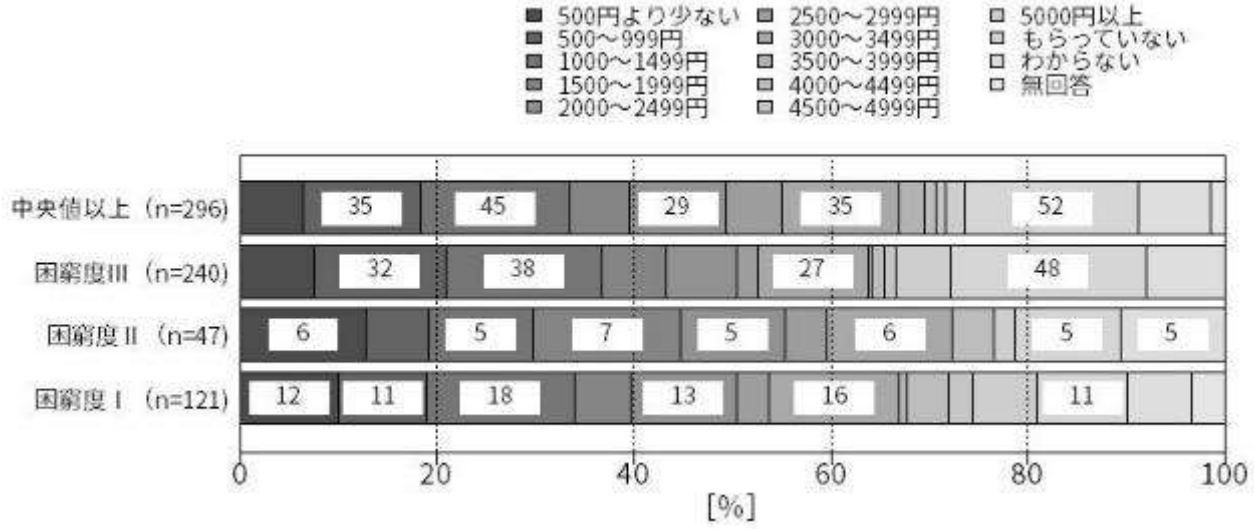
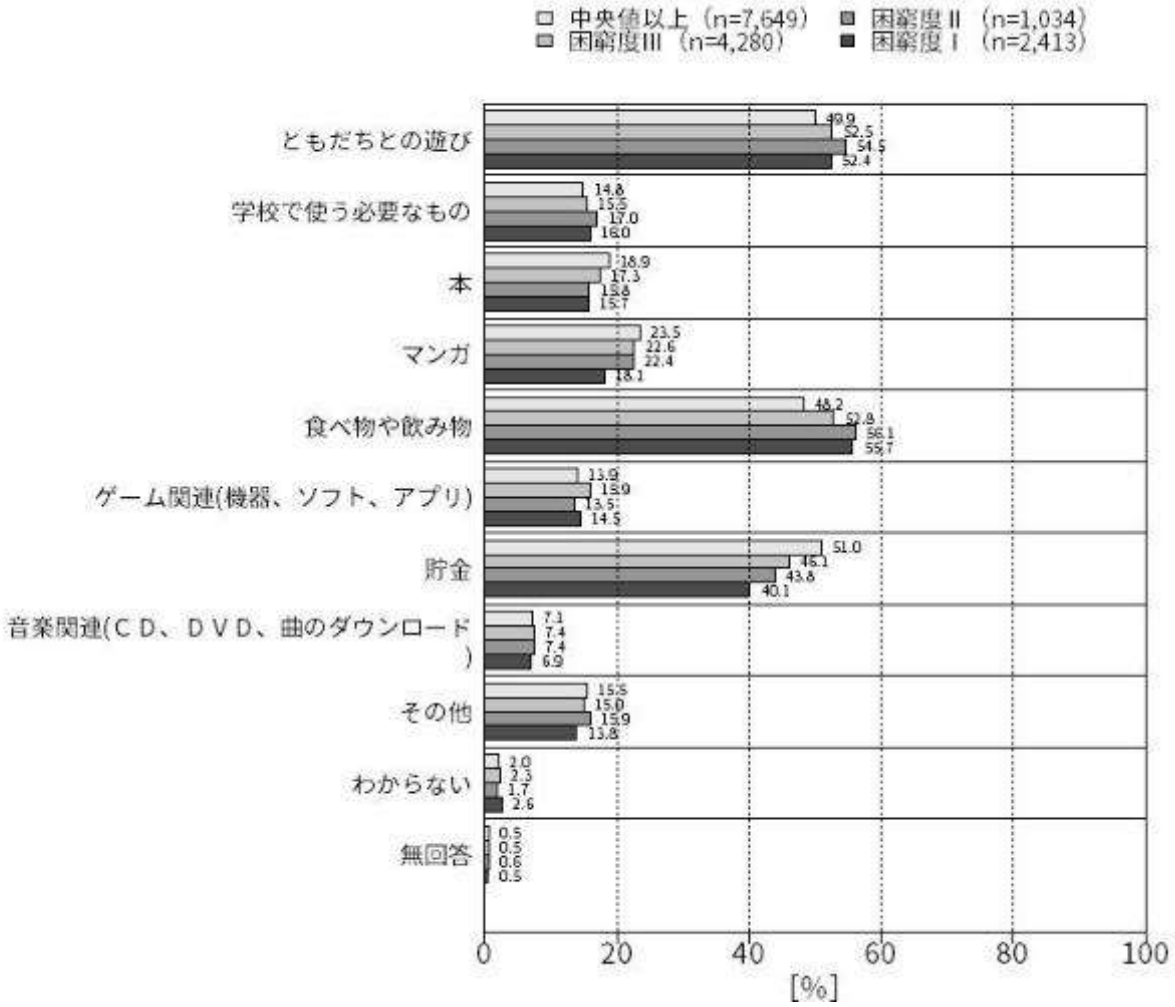


図 123. 困窮度別に見た、おこづかいの金額分布

困窮度別におこづかいの金額分布を見ると、困窮度による大きな違いは見られない。おこづかいをもらってはいるが、その使途や必要な物は親に購入してもらっているか、など詳細をみる必要がある。

困窮度別に見た、おこづかいの使い方（子ども票　問 20(3)）

＜大阪市 24 区＞



＜大阪市大正区＞

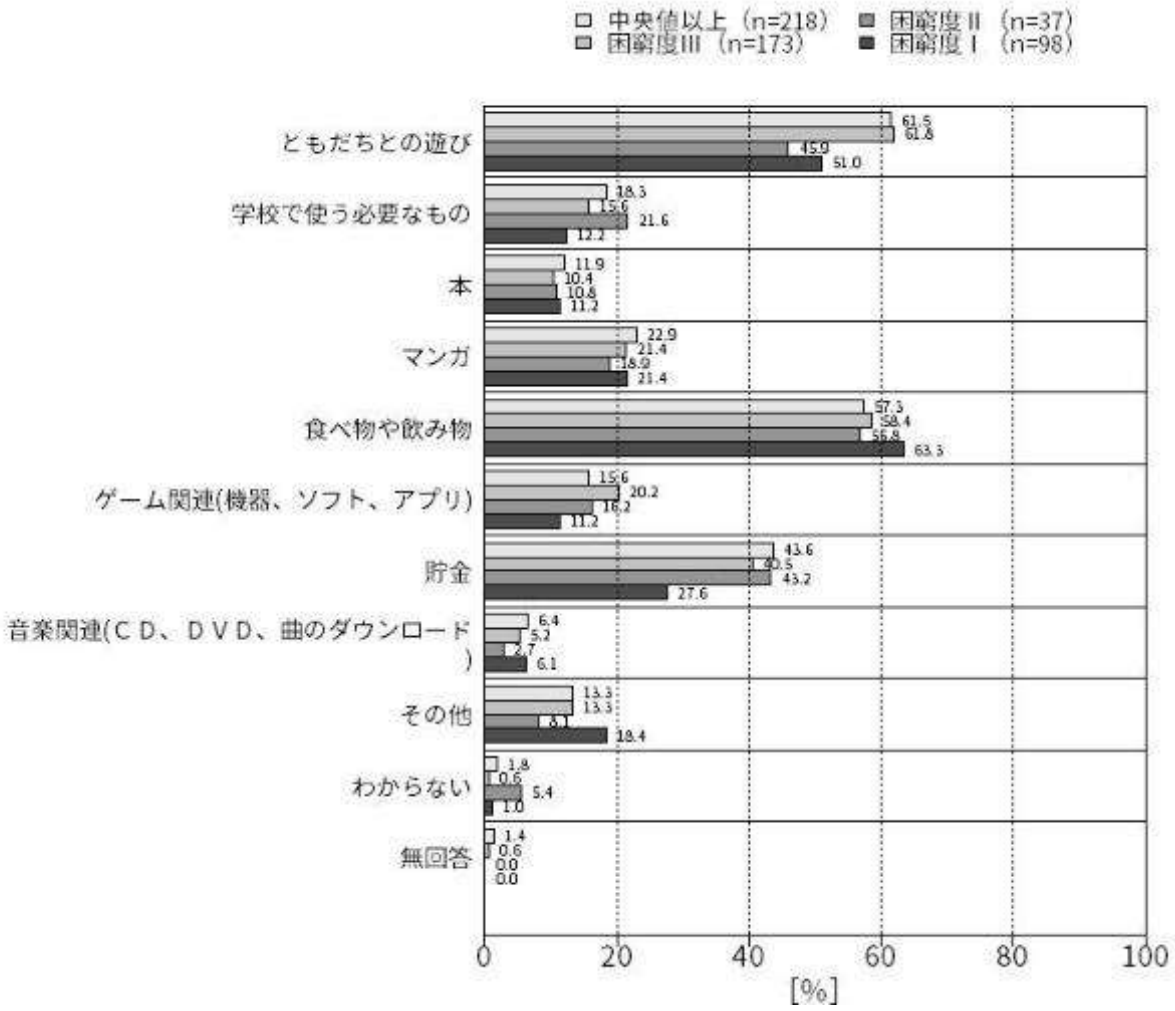


図 124. 困窮度別に見た、おこづかいの使い方

困窮度別におこづかいの使い方を見ると、「貯金」が中央値以上群 43.6%であったのに対して、困窮度Ⅱ群では 43.2%、困窮度Ⅰ群では 27.6%であった。

＜経済状況に関する考察＞

困窮度が深刻化すればするほど、生活面での困難は増す傾向が見られた。困窮度Ⅰの群において「電気・ガス・水道などが止められた」世帯は5.7%、「医療機関を受診できなかった」世帯は4.1%であった。しかし、中央値以上の群では、いずれも2%以下の世帯にとどまっており、生活面での格差を確認することができる。そのほかにも、中央値以上の群が5%以下であるのに対して、困窮度Ⅰの群の割合が高かった項目として「電話などの通信料の支払いが滞ったことがある」14.6%、「国民年金の支払いが滞ったことがある」19.5%、「国民健康保険料の支払いが滞ったことがある」27.6%などが挙げられる。

「どれにもあてはまらない」と、この項目で回答するということは「通常であれば可能な生活」の水準に達しているといえる。中央値以上の群では、それに該当すると回答した世帯は31.8%であった一方で、困窮度Ⅰの群では11.4%であった。さらに、こういった経済状況は、親の心理的な面にも影響している。「生活の見通しがたたなくて不安になったことがある」という回答は、中央値以上の群が10.1%であったのに、困窮度Ⅰの群では37.4%となっている。

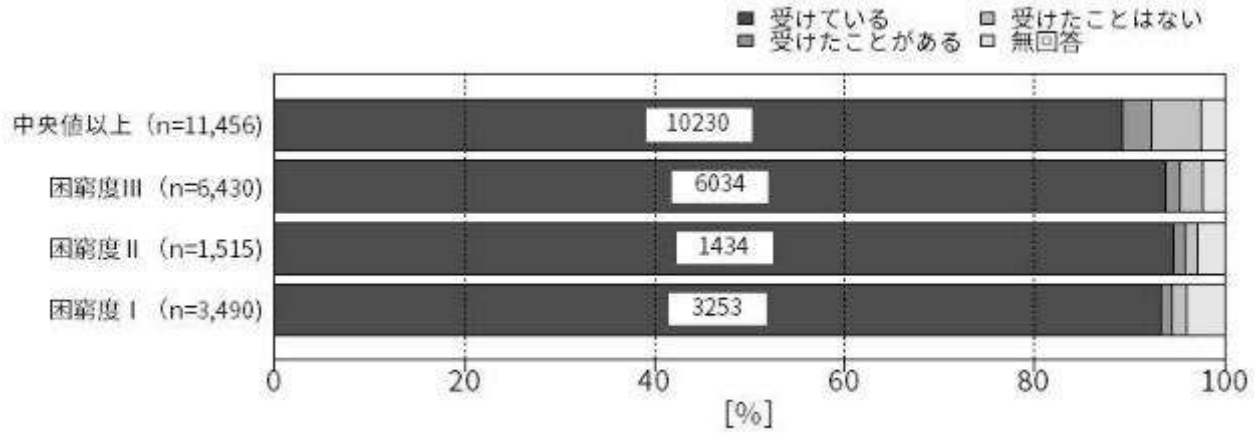
世帯の経済状況は、子どもの生活にも影響を与えていることが確認できる。たとえば、困窮度Ⅰの群では、「子どもを医療機関に受診させることができなかった」という回答が2.4%、「子どもの進路を変更した」が4.9%であった。しかし、中央値以上の群ではこれらの回答はともに1.0%であった。他にも、「子どもに新しい服や靴を買うことができなかった」世帯は、中央値以上の群では5.4%であったのに対し、困窮度Ⅰの群では26.0%であった。子どもを取り巻く状況の格差が示されていると言える。

調査では、世帯所得の差が学習面での機会の差となって現れることが示されている。中央値以上の群で「子どもを習い事に通わすことができなかった」が5.4%、「子どもを学習塾に通わすことができなかった」が6.4%に対して、困窮度Ⅰの群ではいずれも27.6%と、顕著な差が見られている。学習機会の格差は、子どもの将来に影響を与えることが予想される。このほか学校外での子どもの多様な「体験」の有無も、子どものヒューマンキャピタルの形成に影響を与えることが予想されるが、調査結果では、所得階群によって体験に格差があることが示された。たとえば、「家族旅行（テーマパークなど日帰りのおでかけを含む）ができなかった」という回答は、中央値以上の群で11.8%に対して、困窮度Ⅰの群では43.1%であった。その一方、「どれにも当てはまらない」が、中央値以上の群では63.9%に達している。子どもに対して困難なく資源や機会が提供できている世帯も多数いるという点にも留意する必要があるだろう。

（２）家庭状況（制度等）

困窮度別に見た、児童手当（保護者票　問 30(3)①）

＜大阪市 24 区＞



＜大阪市大正区＞

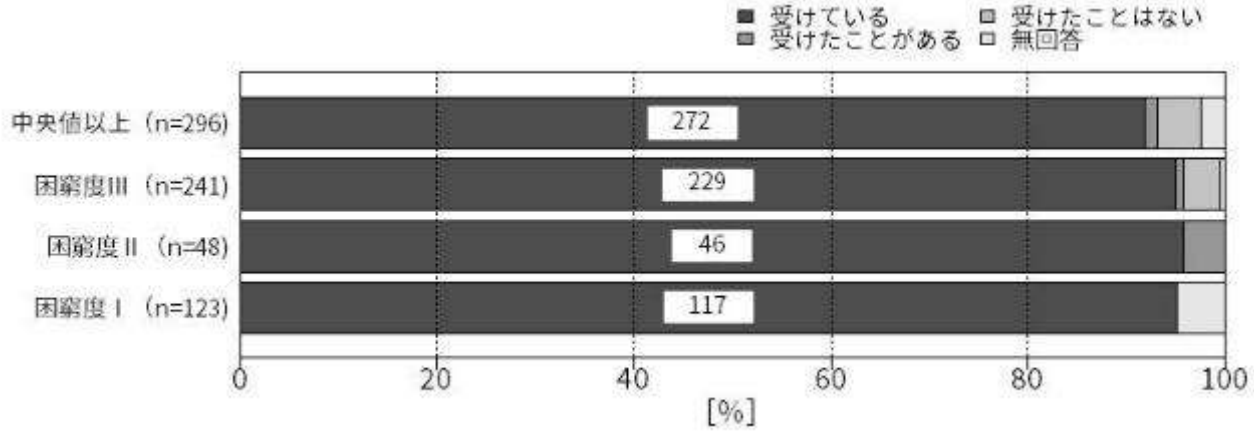
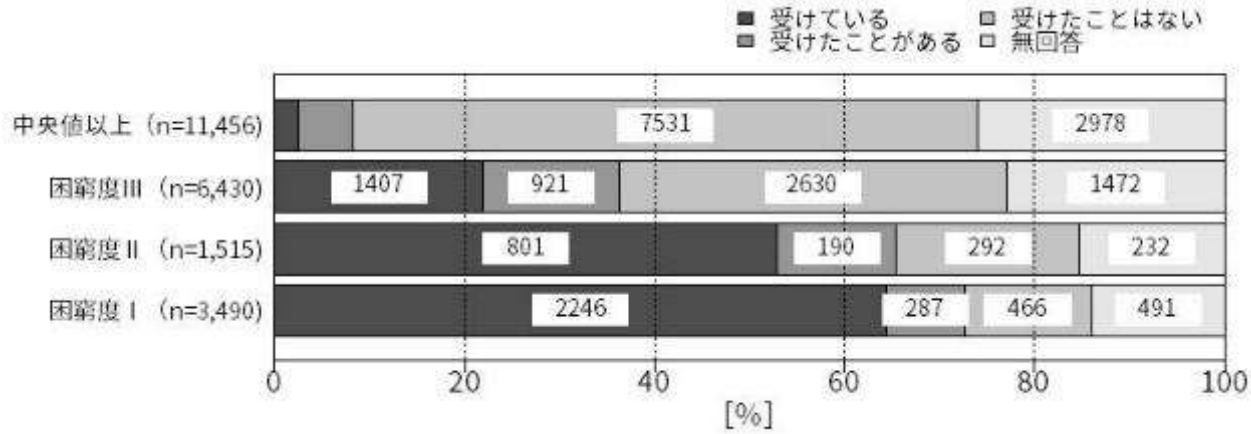


図 125. 困窮度別に見た、児童手当

児童手当は多くの世帯が受給していた。困窮度別に児童手当の受給率を見ると、困窮度Ⅰ～Ⅲ群において、とりわけ多くの世帯（95.0%～95.8%）が「受けている」に回答した。

困窮度別に見た、就学援助費（保護者票　問 30(3)②）

＜大阪市 24 区＞



＜大阪市大正区＞

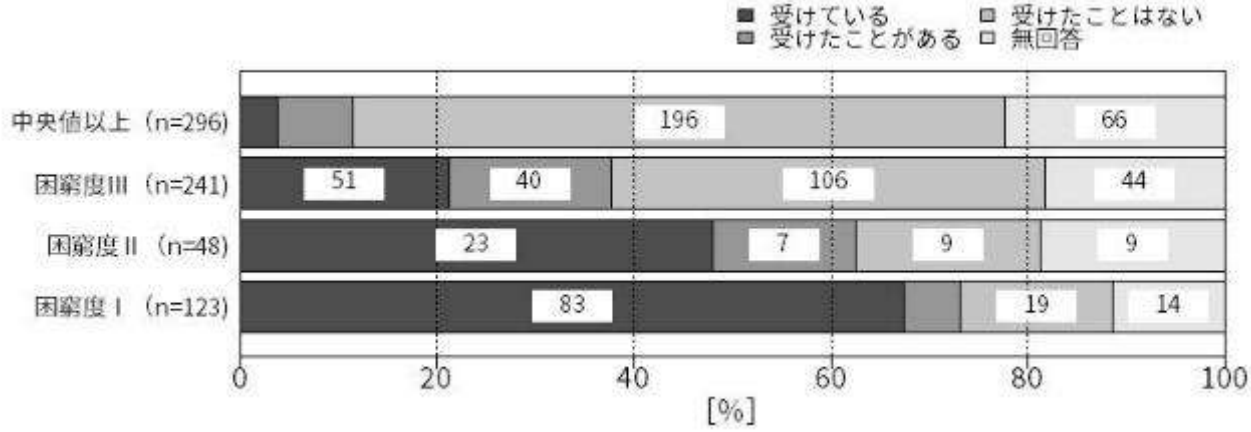
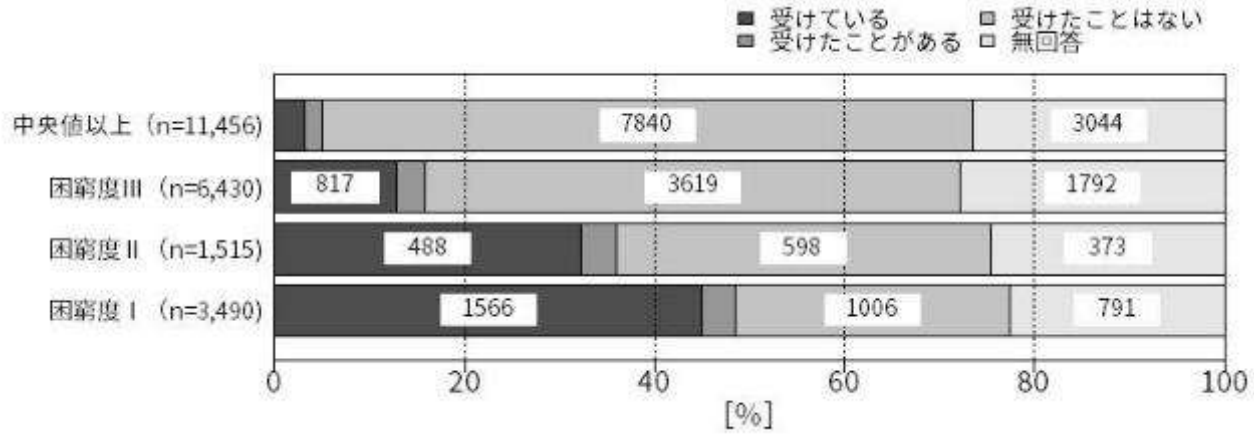


図 126.　困窮度別に見た、就学援助費

困窮度別に就学援助費の受給率を見ると、困窮度が高まるにつれ、「受けている」の割合が高くなっている。

困窮度別に見た、児童扶養手当（保護者票　問 30(3)③）

＜大阪市 24 区＞



＜大阪市大正区＞

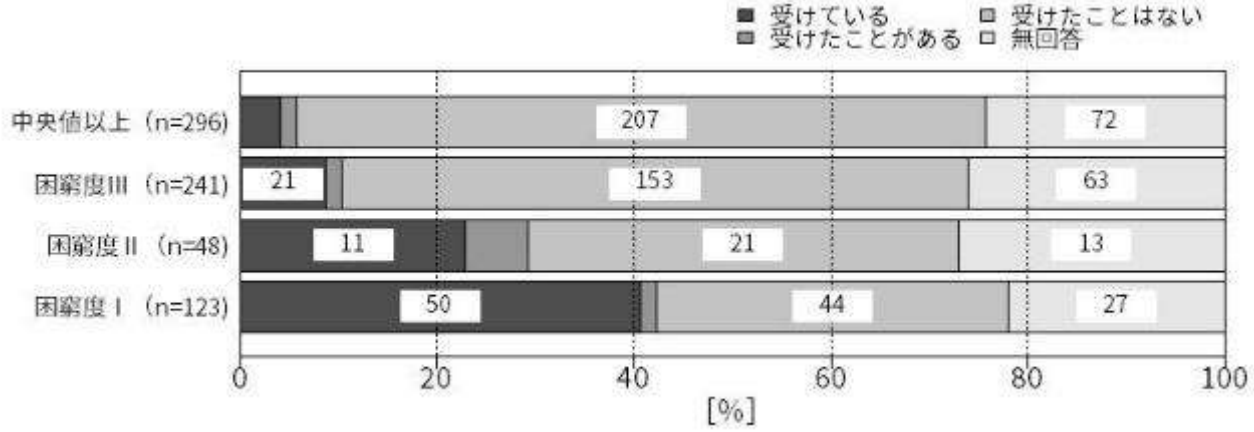


図 127. 困窮度別に見た、児童扶養手当

困窮度別に児童扶養手当の受給率を見ると、困窮度が高まるにつれ、「受けている」の割合が高くなっている。

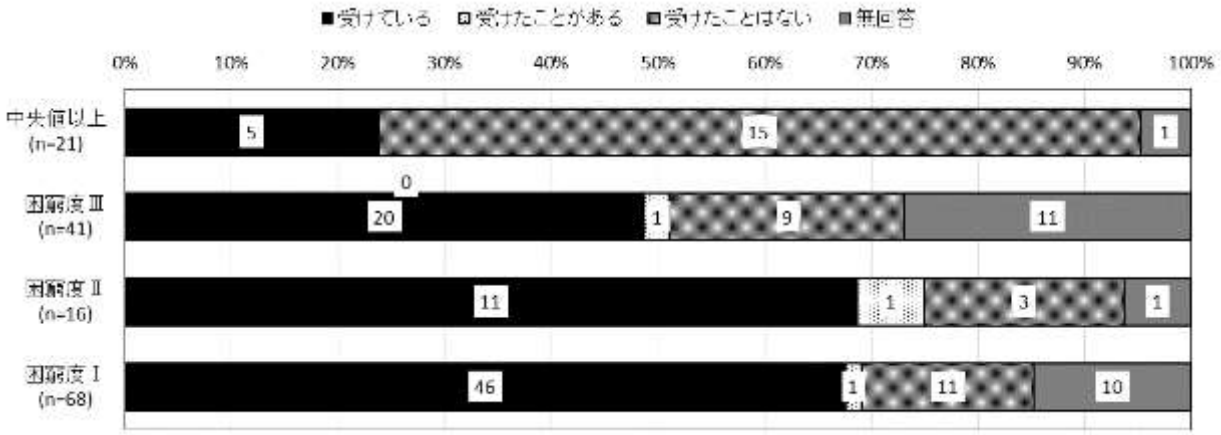
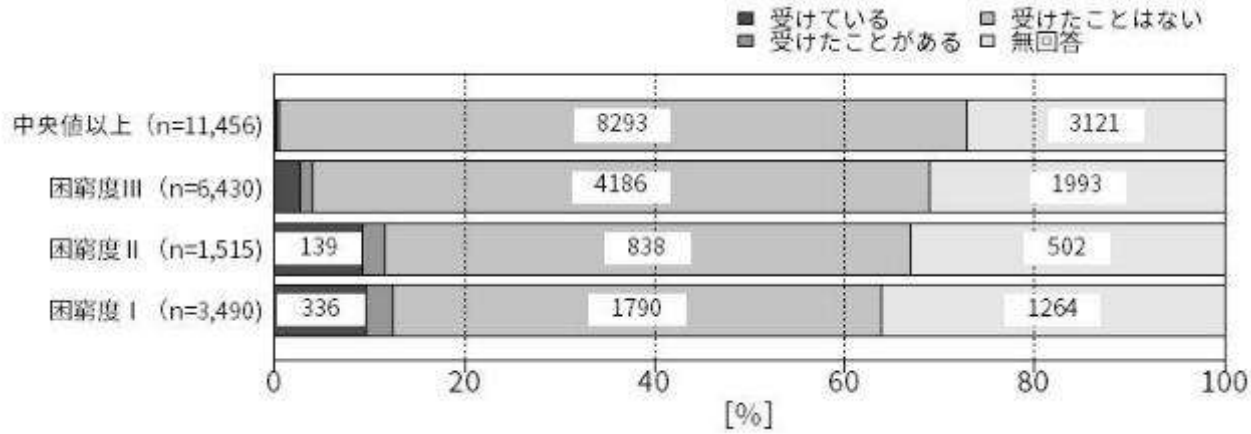


図 127 の補足図. 困窮度別に見た、児童扶養手当（ひとり親）

困窮度別に見た、生活保護（保護者票　問 30(3)⑤）

＜大阪市 24 区＞



＜大阪市大正区＞

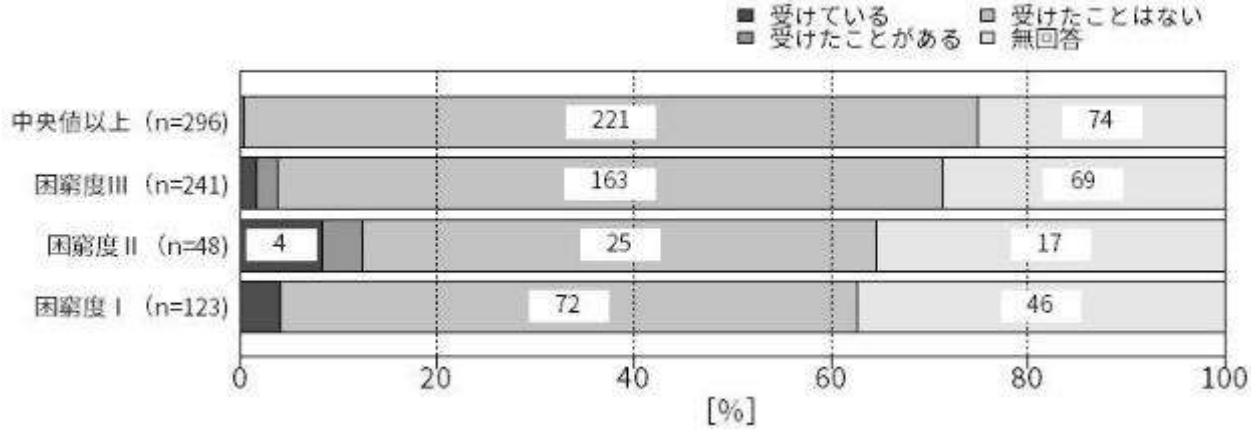
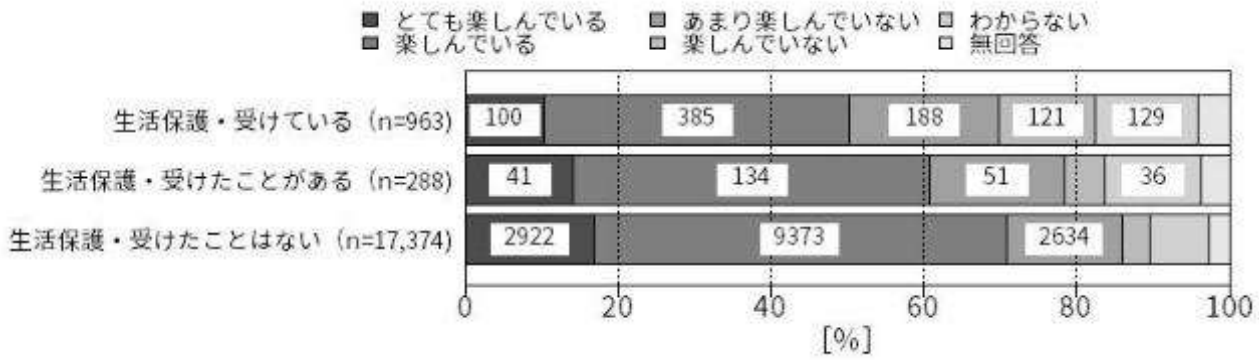


図 128.　困窮度別に見た、生活保護

困窮度別に生活保護の受給率を見ると、困窮度Ⅰ群においては「受けている」と回答した人は 4.1% であった。概ね、困窮度が高まるにつれ、「受けている」の割合が高くなっている。

生活保護の受給別に見た、心の状態（生活を楽しんでいるか）
（保護者票　問 30(3)⑤ × 保護者票　問 25(1)）

＜大阪市 24 区＞



＜大阪市大正区＞

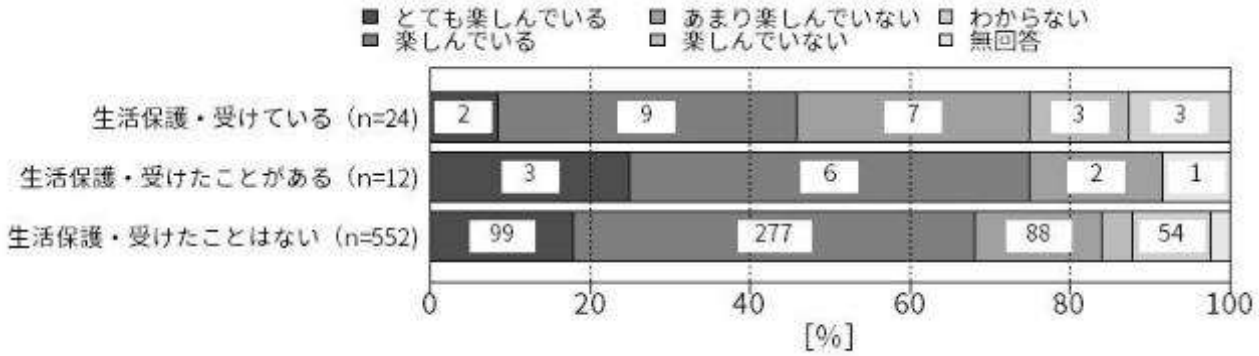
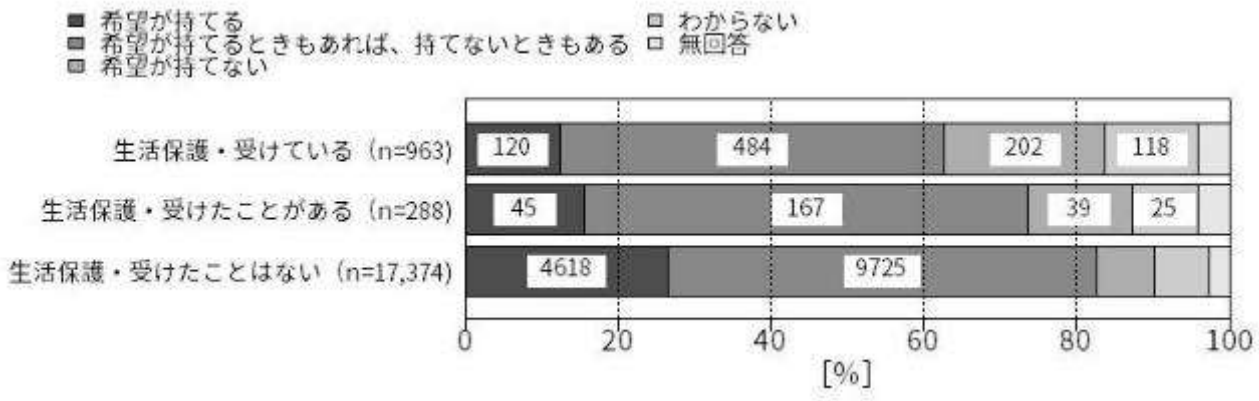


図 129. 生活保護の受給別に見た、心の状態（生活を楽しんでいるか）

生活保護を受けたことがある世帯は少数であったため傾向を述べることはできない。生活保護を受けている世帯では、生活を「楽しんでいない」という回答が 12.5%に対し、生活保護を受けたことがある世帯では該当なし、生活保護を受けたことがない世帯では 3.8%であった。

生活保護の受給別に見た、心の状態（将来への希望）
（保護者票　問 30(3)⑤ × 保護者票　問 25(2)）

＜大阪市 24 区＞



＜大阪市大正区＞

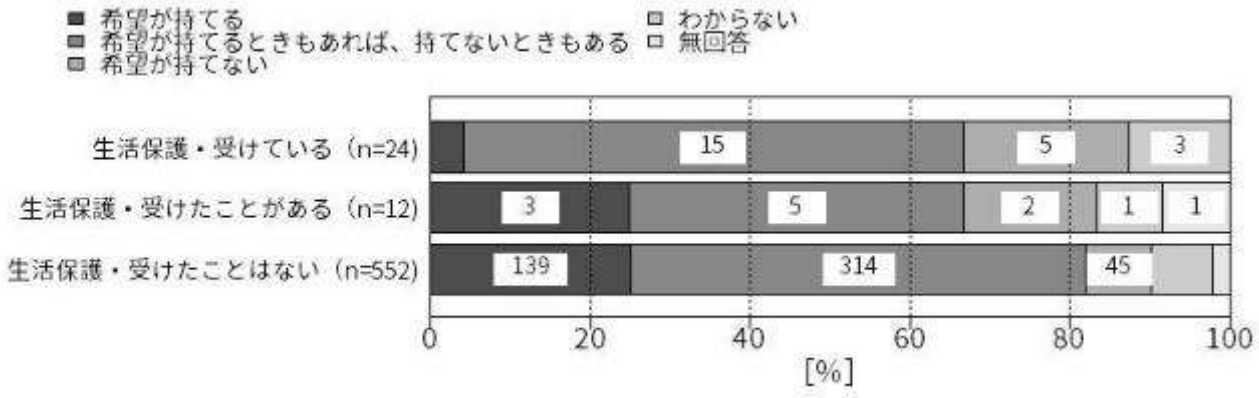
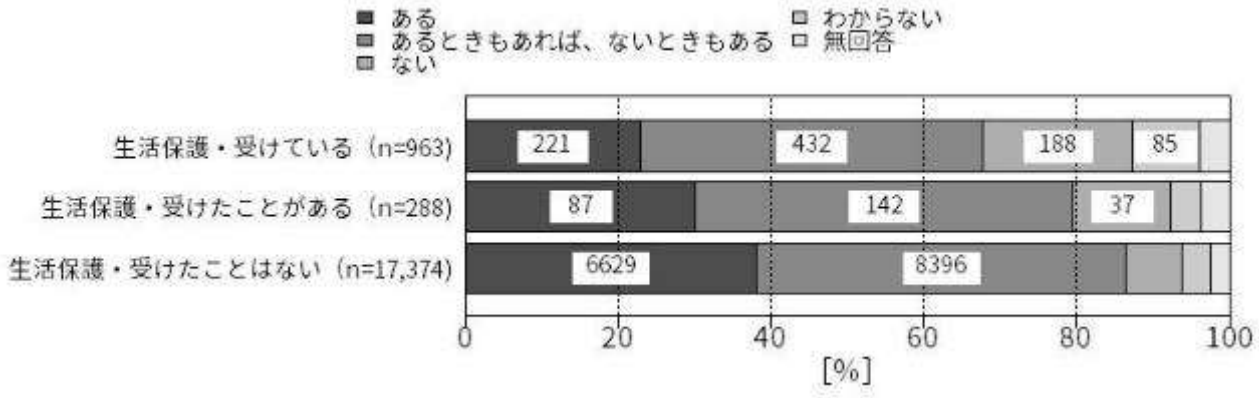


図 130. 生活保護の受給別に見た、心の状態（将来への希望）

生活保護を受けたことがある世帯は少数であったため傾向を述べることはできない。生活保護を受けている世帯では、将来に対して「希望が持てない」という回答が 20.8%に対し、生活保護を受けたことがある世帯では 16.7%、生活保護を受けたことがない世帯では 8.2%であった。

生活保護の受給別に見た、心の状態（ストレス発散できるもの）
（保護者票　問 30(3)⑤ × 保護者票　問 25(3)）

＜大阪市 24 区＞



＜大阪市大正区＞

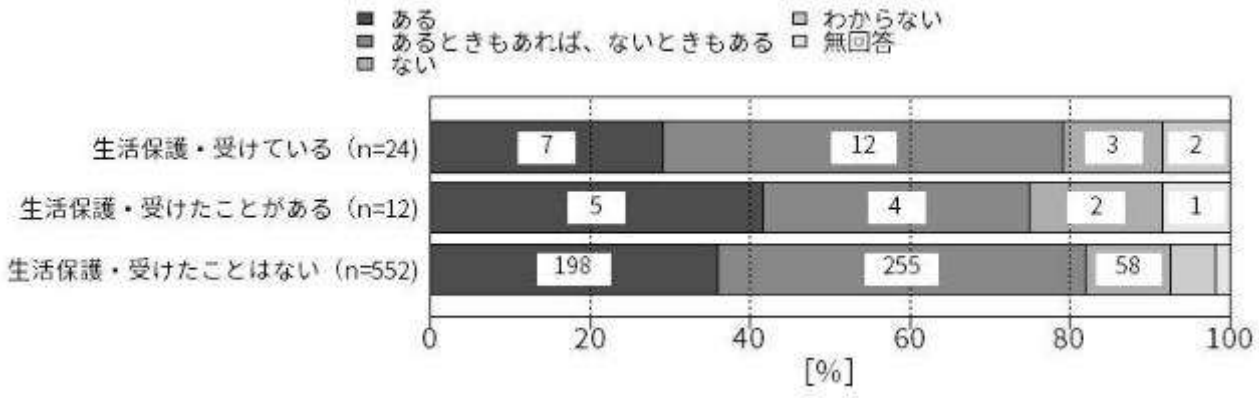
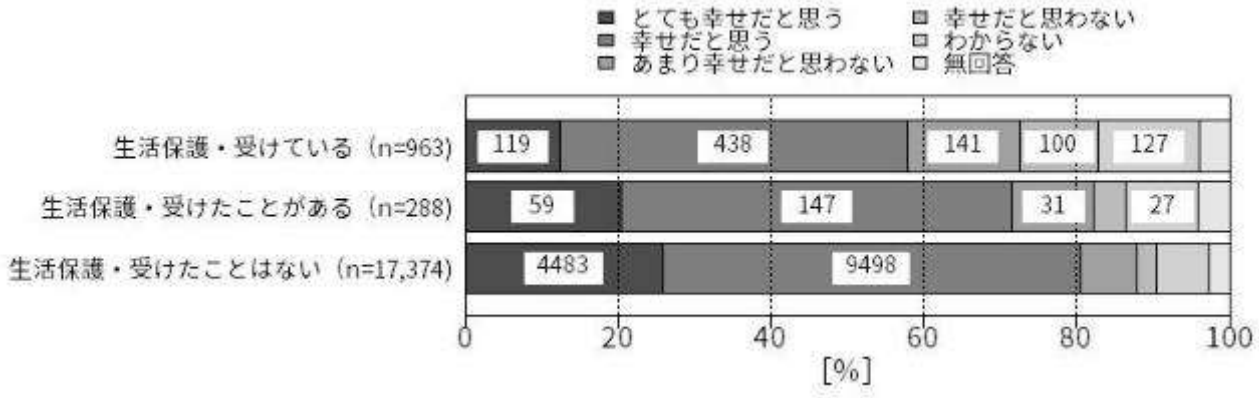


図 131. 生活保護の受給別に見た、心の状態（ストレス発散できるもの）

生活保護を受けたことがある世帯は少数であったため傾向を述べることはできない。生活保護を受けている世帯では、ストレスを発散できるものが「ない」という回答が 12.5%に対し、生活保護を受けたことがある世帯では 16.7%、生活保護を受けたことがない世帯では 10.5%であった。

生活保護の受給別に見た、心の状態（幸せだと思うか）
（保護者票　問 30(3)⑤ × 保護者票　問 25(4)）

＜大阪市 24 区＞



＜大阪市大正区＞

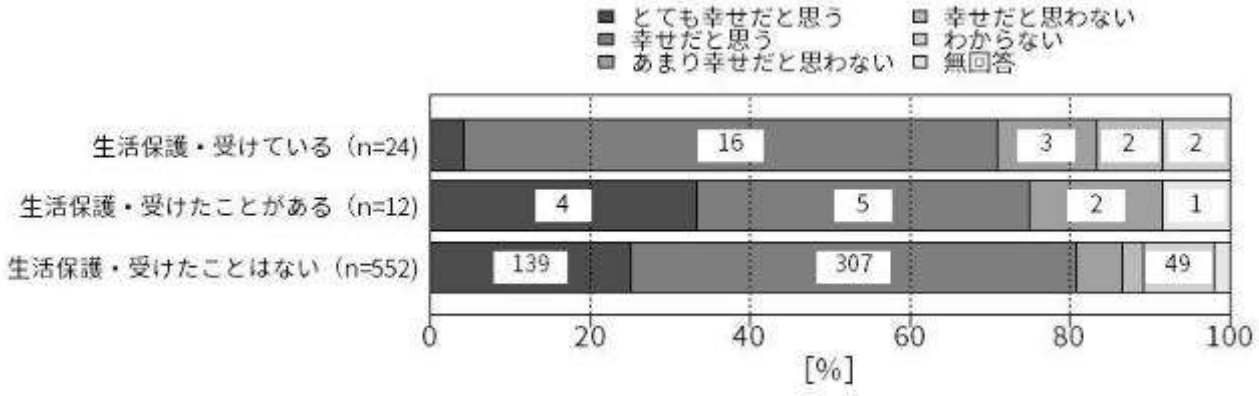
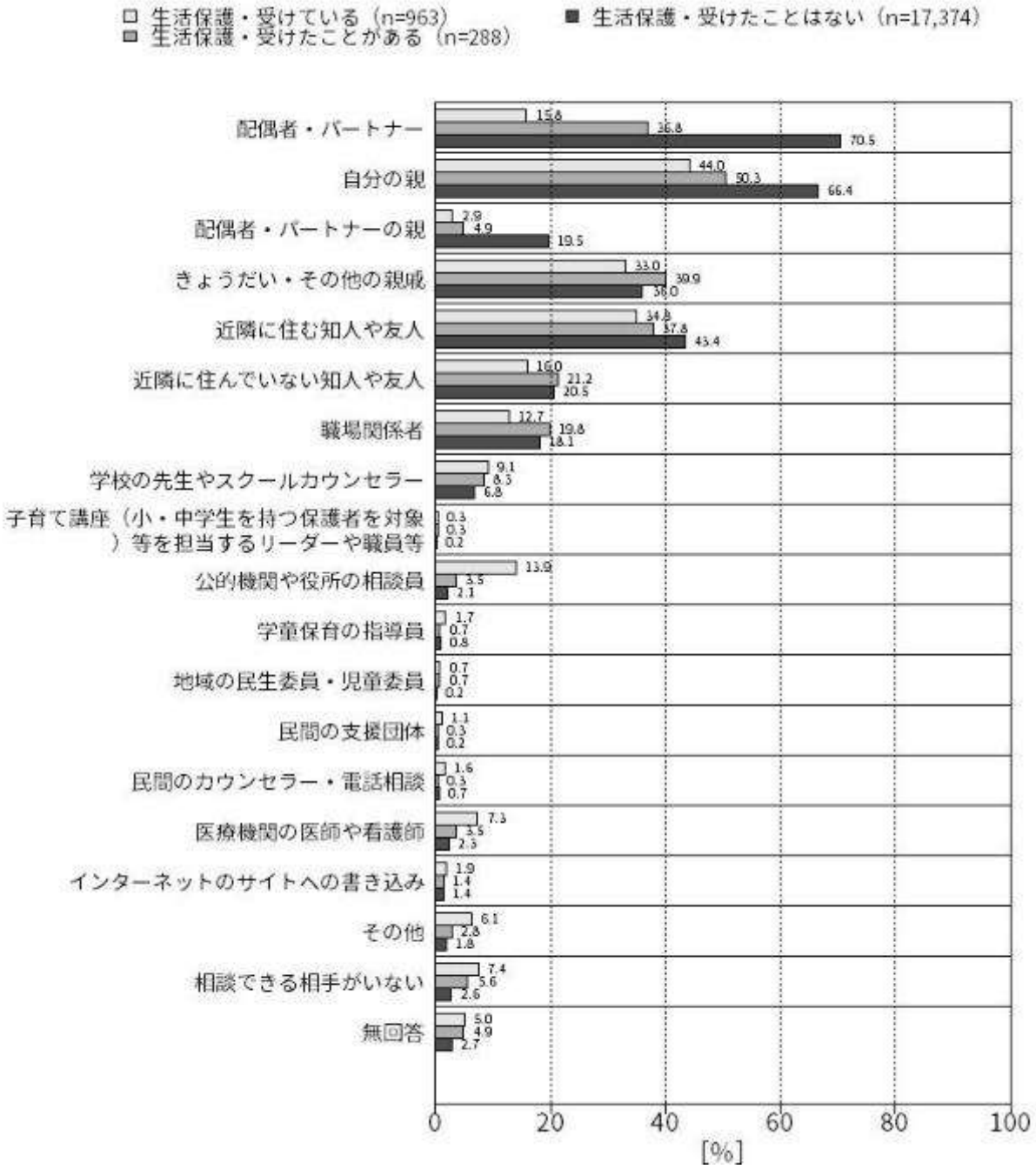


図 132. 生活保護の受給別に見た、心の状態（幸せだと思うか）

生活保護を受けたことがある世帯は少数であったため傾向を述べることはできない。生活保護を受けている世帯では、「幸せだと思わない」という回答が 8.3%に対し、生活保護を受けたことがある世帯では該当なし、生活保護を受けたことがない世帯では 2.5%であった。

生活保護の受給別に見た、困ったときの相談先（保護者票　問 30(3)⑤ × 保護者票　問 24）

＜大阪市 24 区＞



＜大阪市大正区＞

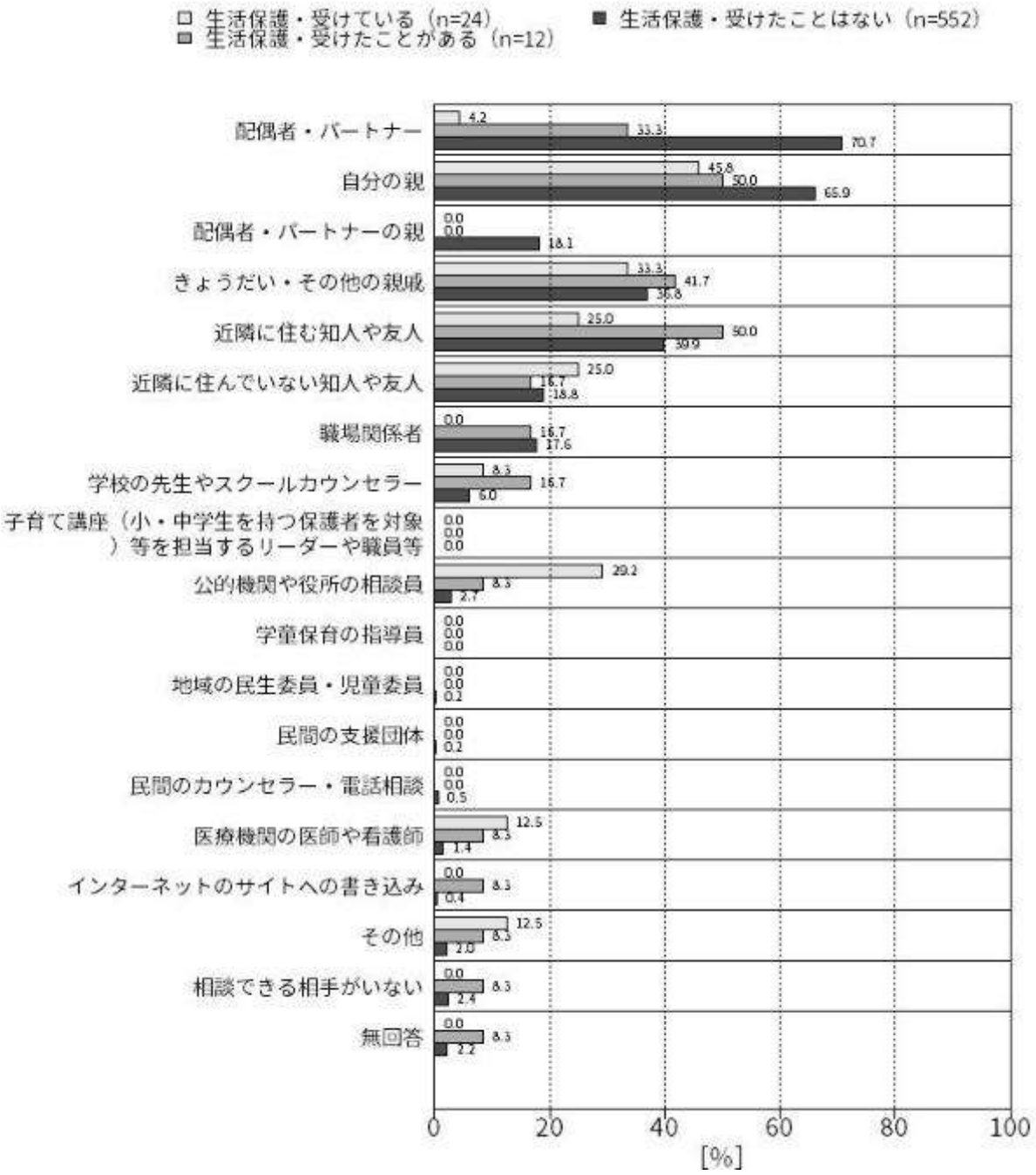
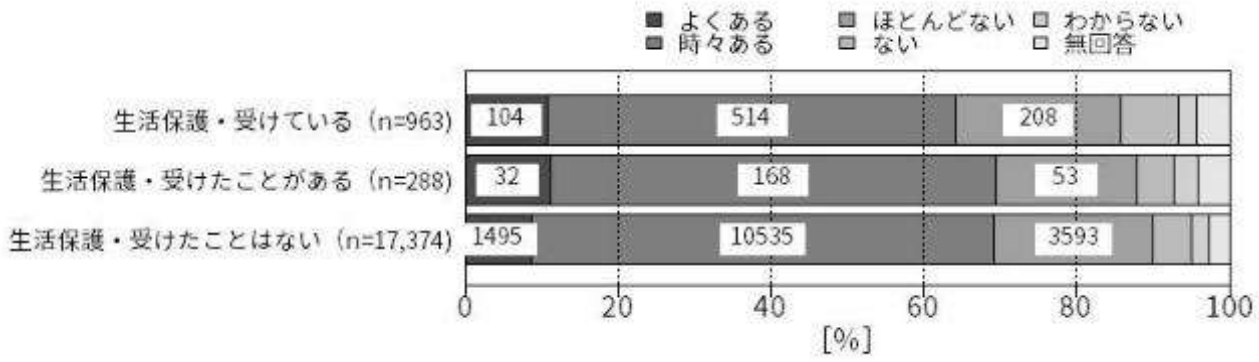


図 133. 生活保護の受給別に見た、困ったときの相談先

生活保護を受けたことがある世帯は少数であったため傾向を述べることはできない。生活保護を受けている世帯では、「相談できる相手がいない」という回答が該当なしに対し、生活保護を受けたことがある世帯では 8.3%、生活保護を受けたことがない世帯では 2.4%であった。

生活保護の受給別に見た、不安やイライラなどの感情を子どもに向けてしまうこと
（保護者票　問 30(3)⑤ × 保護者票　問 27）

＜大阪市 24 区＞



＜大阪市大正区＞

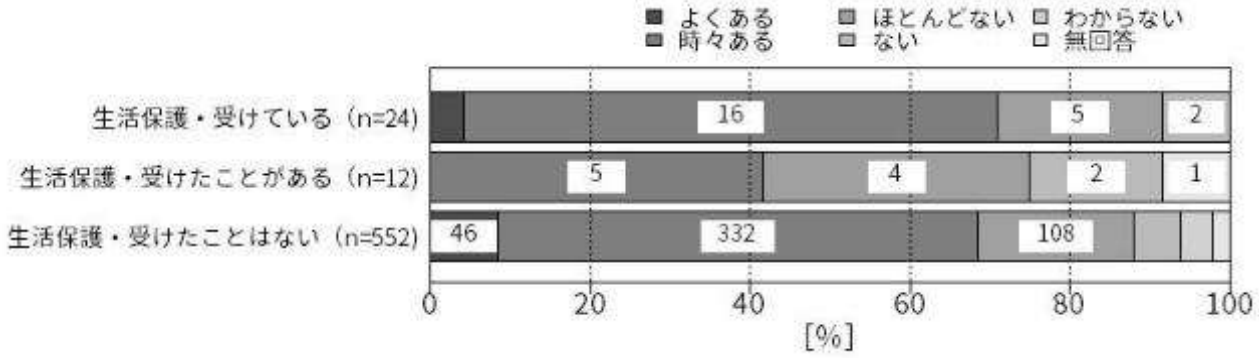
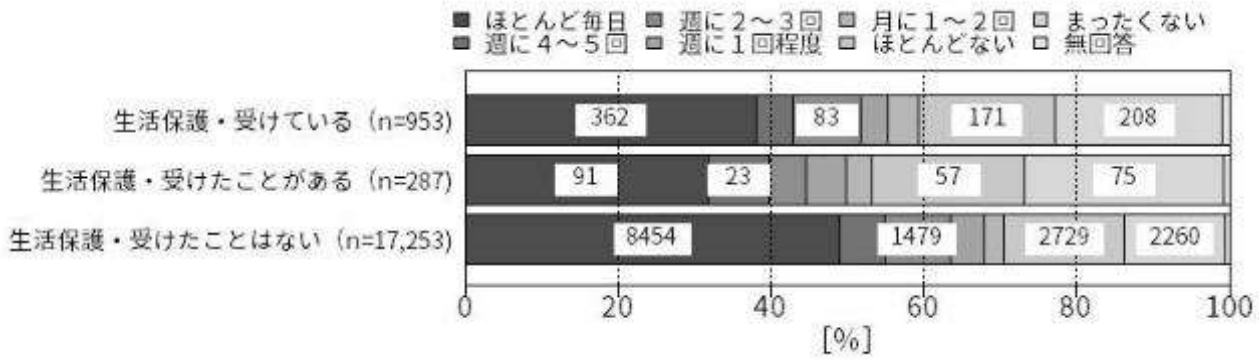


図 134. 生活保護の受給別に見た、不安やイライラなどの感情を子どもに向けてしまうこと

生活保護を受けたことがある世帯は少数であったため傾向を述べることはできない。生活保護を受けている世帯では、不安やイライラなどの感情を子どもに向けてしまうことが「よくある」と回答した人が 4.2%に対し、生活保護を受けたことがある世帯では該当なし、生活保護を受けたことがない世帯では 8.3%であった。

生活保護の受給別に見た、保護者と子どもの関わり（おうちの大人と朝食を食べるか）
（保護者票　問 30(3)⑤ × 子ども票　問 10①）

＜大阪市 24 区＞



＜大阪市大正区＞

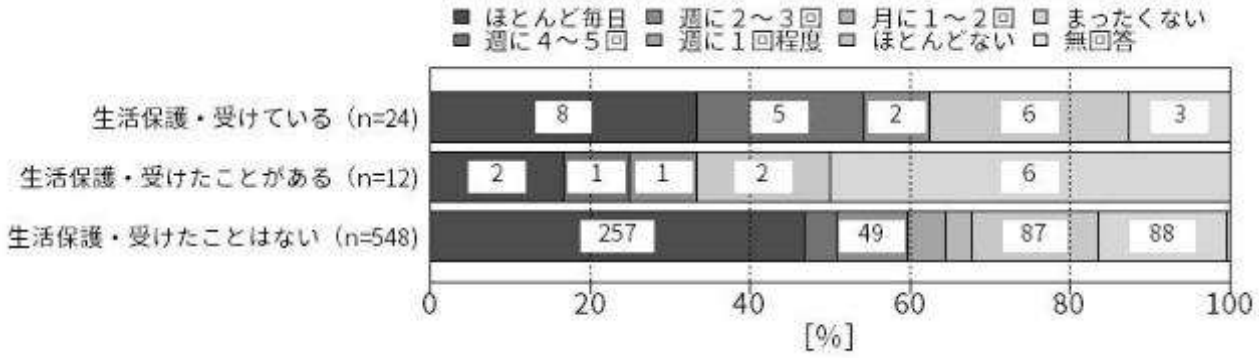
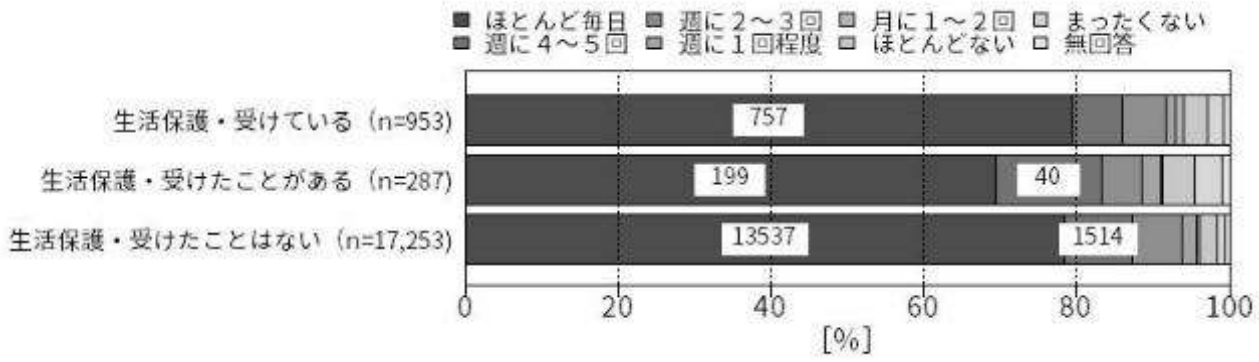


図 135. 生活保護の受給別に見た、保護者と子どもの関わり
（おうちの大人と朝食を食べるか）

生活保護を受けたことがある世帯は少数であったため傾向を述べることはできない。生活保護を受けている世帯では、おうちの大人の人と一緒に朝食を食べることが「まったくない」と回答した子どもが 12.5%に対し、生活保護を受けたことがある世帯では 50.0%、生活保護を受けたことがない世帯では 16.1%であった。

生活保護の受給別に見た、保護者と子どもの関わり（おうちの大人と夕食を食べるか）
（保護者票　問 30(3)⑤ × 子ども票　問 10②）

＜大阪市 24 区＞



＜大阪市大正区＞

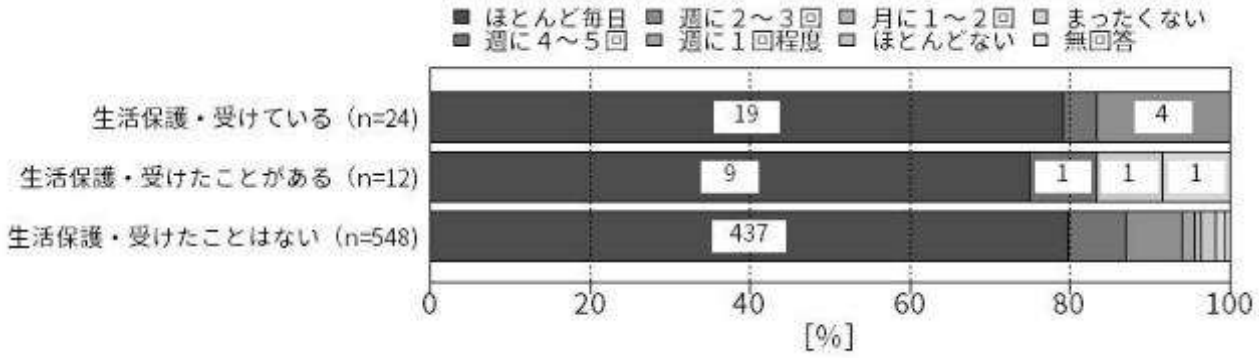
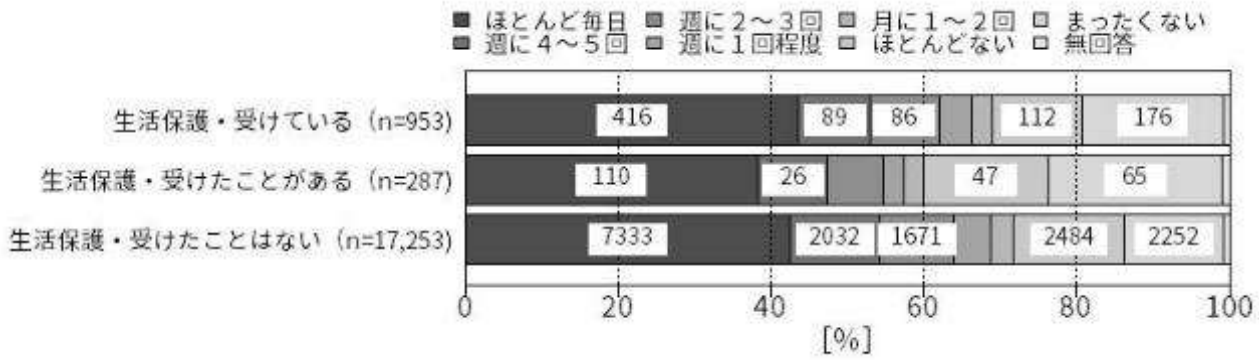


図 136. 生活保護の受給別に見た、保護者と子どもの関わり
（おうちの大人と夕食を食べるか）

生活保護を受けたことがある世帯は少数であったため傾向を述べることはできない。生活保護を受けている世帯では、おうちの大人の人と一緒に夕食を食べることが「まったくない」と回答した子どもが該当なしであるのに対し、生活保護を受けたことがある世帯では 8.3%、生活保護を受けたことがない世帯では 1.3%であった。

生活保護の受給別に見た、保護者と子どもの関わり（おうちの大人に朝、起こされるか）
（保護者票　問 30(3)⑤ × 子ども票　問 10③）

＜大阪市 24 区＞



＜大阪市大正区＞

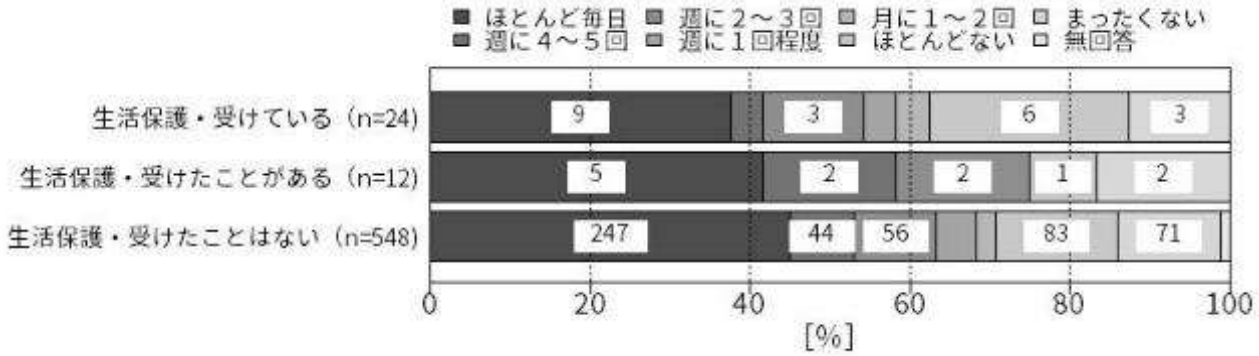
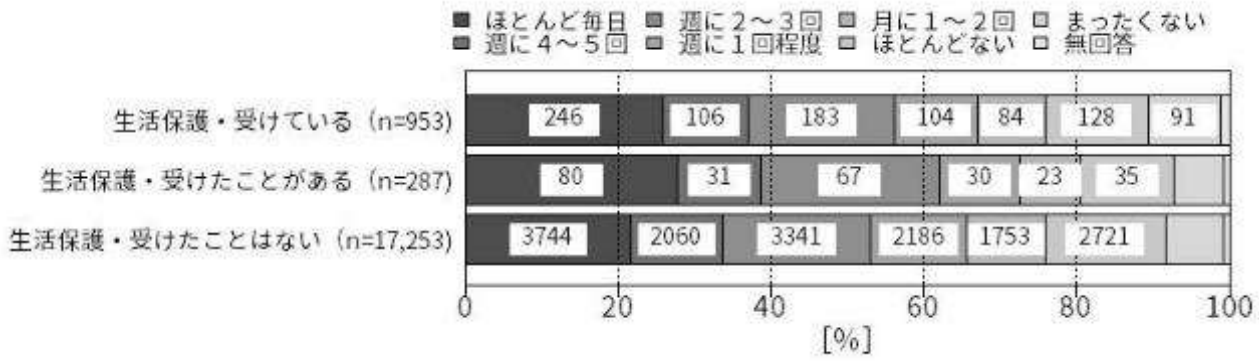


図 137. 生活保護の受給別に見た、保護者と子どもの関わり
（おうちの大人に朝、起こされるか）

生活保護を受けたことがある世帯は少数であったため傾向を述べることはできない。生活保護の受給状況別によって、おうちの大人の人に朝起こしてもらうかどうかに大きな違いは見られなかった。

生活保護の受給別に見た、保護者と子どもの関わり（家の手伝いをするか）
（保護者票　問 30(3)⑤ × 子ども票　問 10④）

＜大阪市 24 区＞



＜大阪市大正区＞

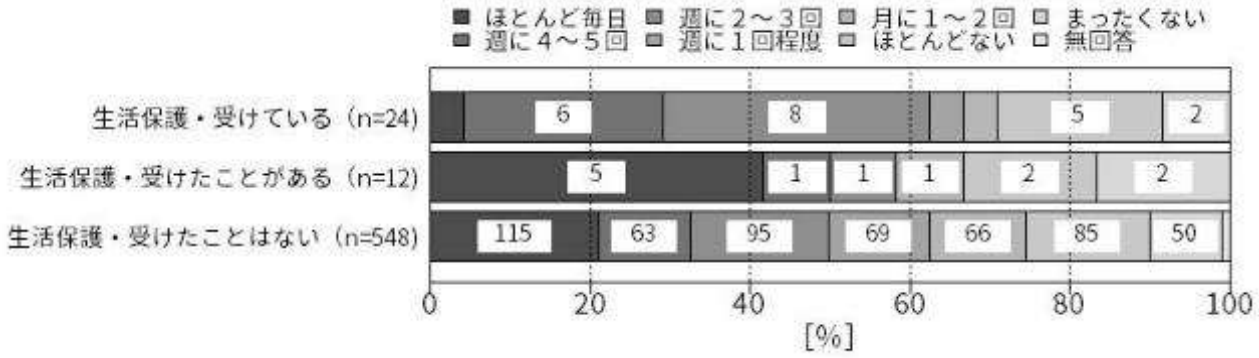
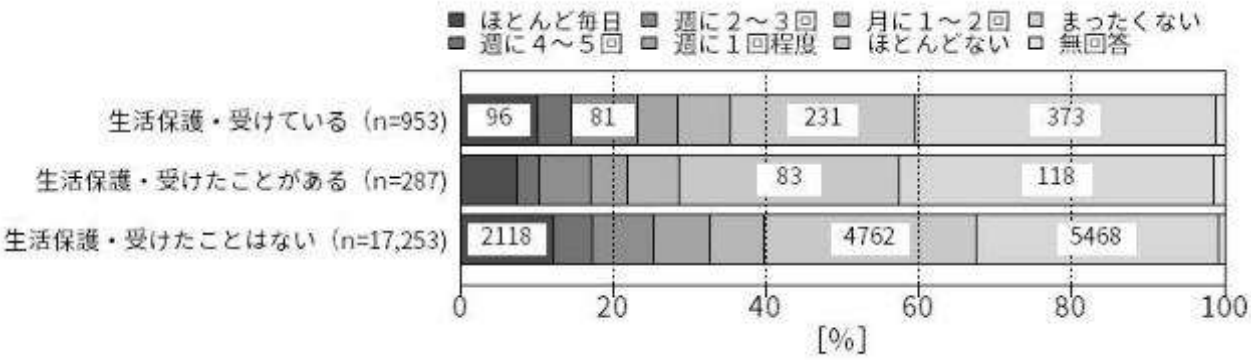


図 138. 生活保護の受給別に見た、保護者と子どもの関わり
(家の手伝いをするか)

生活保護を受けたことがある世帯は少数であったため傾向を述べることはできない。生活保護を受けている世帯では、おうちの手伝いをすることが「まったくない」と回答した子どもが 8.3%に対し、生活保護を受けたことがある世帯では 16.7%、生活保護を受けたことがない世帯では 9.1%であった。

生活保護の受給別に見た、保護者と子どもの関わり（おうちの大人に宿題をみてもらうか）
（保護者票　問 30(3)⑤ × 子ども票　問 10⑤）

＜大阪市 24 区＞



＜大阪市大正区＞

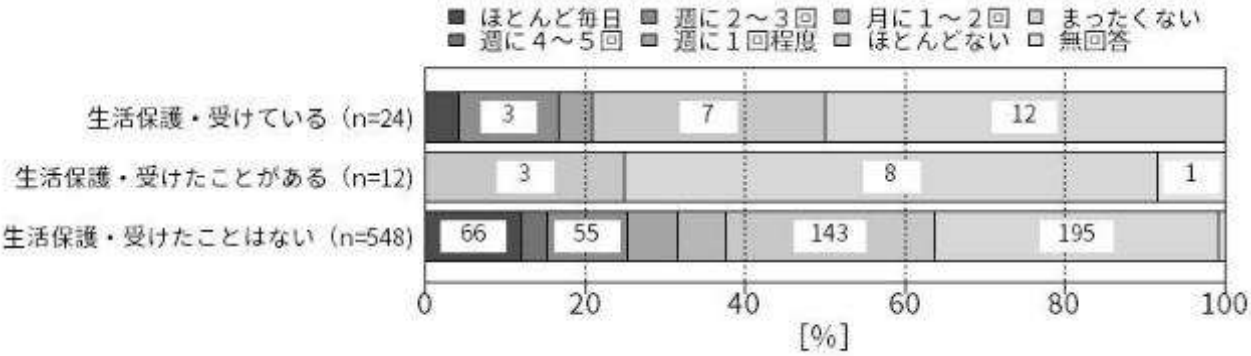
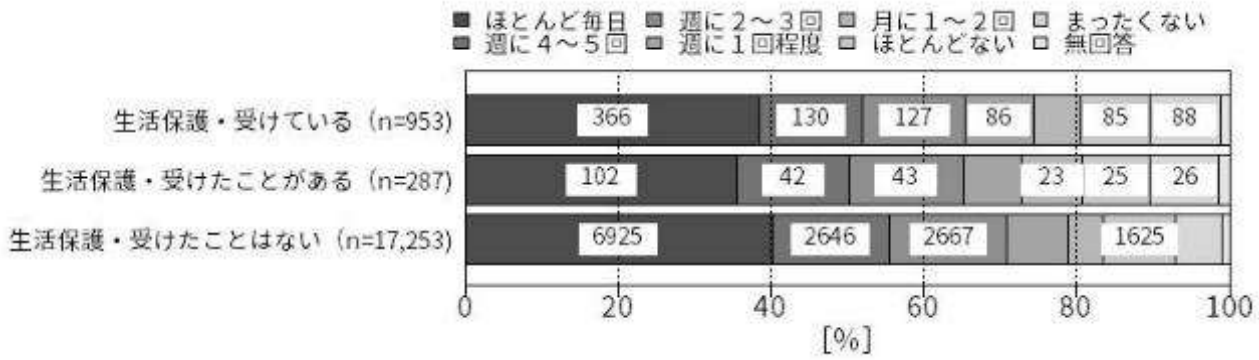


図 139. 生活保護の受給別に見た、保護者と子どもの関わり
（おうちの大人に宿題をみてもらうか）

生活保護を受けたことがある世帯は少数であったため傾向を述べることはできない。生活保護を受けている世帯では、おうちの大人の人に宿題（勉強）をみてもらうことが「まったくない」と回答した子どもが 50.0%に対し、生活保護を受けたことがある世帯では 66.7%、生活保護を受けたことがない世帯では 35.6%であった。

生活保護の受給別に見た、保護者と子どもの関わり（おうちの大人と学校の話をするか）
（保護者票　問 30(3)⑤ × 子ども票　問 10⑥）

＜大阪市 24 区＞



＜大阪市大正区＞

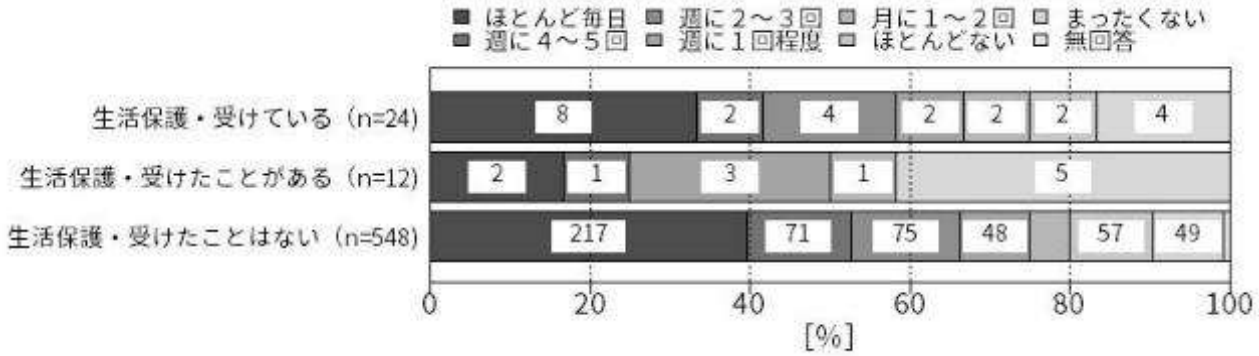
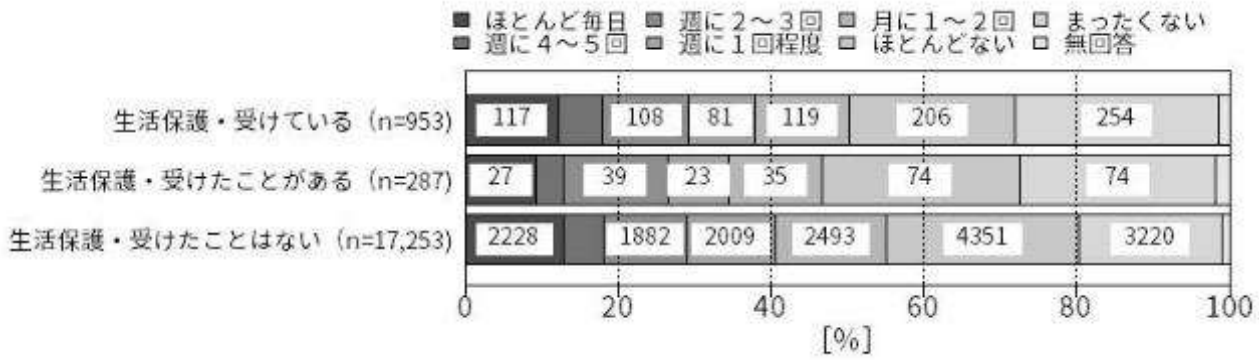


図 140. 生活保護の受給別に見た、保護者と子どもの関わり
（おうちの大人と学校の話をするか）

生活保護を受けたことがある世帯は少数であったため傾向を述べることはできない。生活保護を受けている世帯では、おうちの大人の人と学校でのできごとについて話すことがが「まったくない」と回答した子どもが 16.7%に対し、生活保護を受けたことがある世帯では 41.7%、生活保護を受けたことがない世帯では 8.9%であった。

生活保護の受給別に見た、保護者と子どもの関わり（おうちの大人と遊んだり、体を動かすか）
（保護者票　問 30(3)⑤ × 子ども票　問 10⑦）

＜大阪市 24 区＞



＜大阪市大正区＞

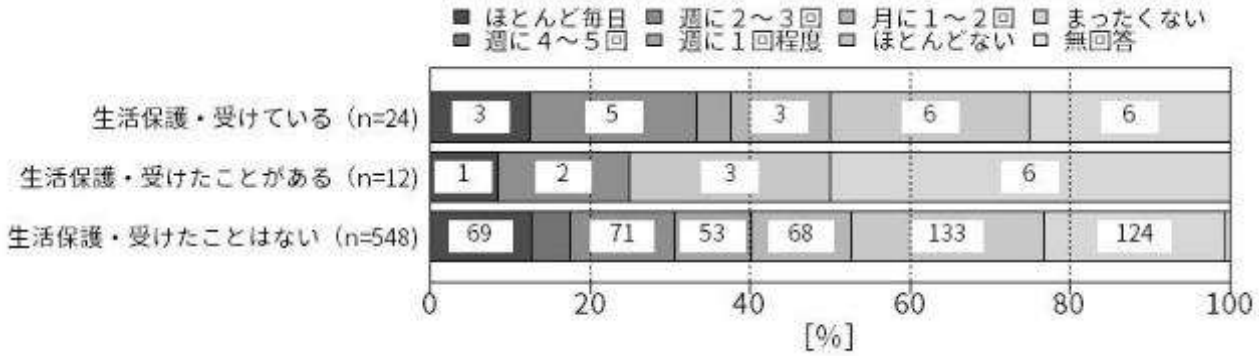
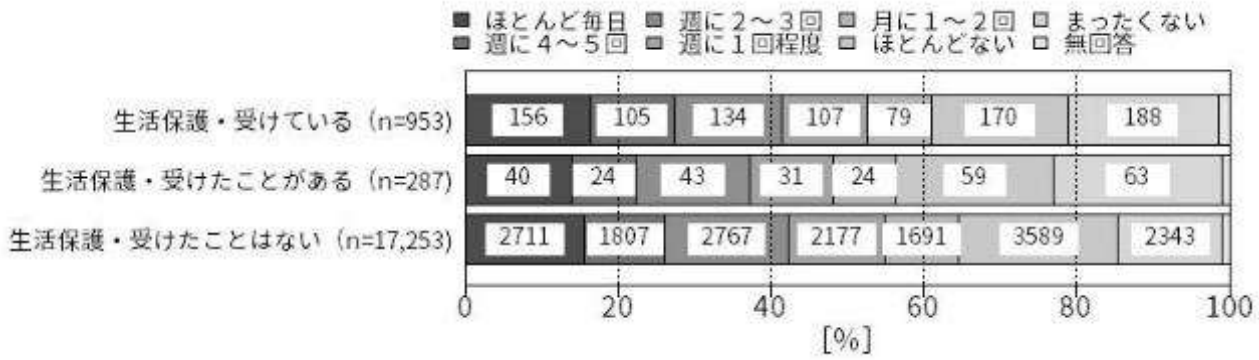


図 141. 生活保護の受給別に見た、保護者と子どもの関わり
（おうちの大人と遊んだり、体を動かすか）

生活保護を受けたことがある世帯は少数であったため傾向を述べることはできない。生活保護を受けている世帯では、おうちの大人の人と遊んだり、体を動かしたりすることが「まったくない」と回答した子どもが 25.0%に対し、生活保護を受けたことがある世帯では 50.0%、生活保護を受けたことがない世帯では 22.6%であった。

生活保護の受給別に見た、保護者と子どもの関わり（おうちの大人と社会のできごとを話すか）
（保護者票　問 30(3)⑤ × 子ども票　問 10⑧）

＜大阪市 24 区＞



＜大阪市大正区＞

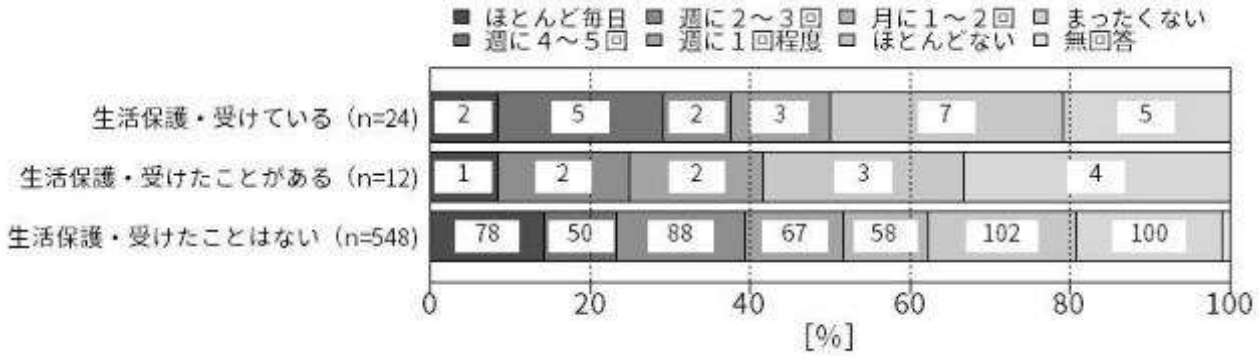
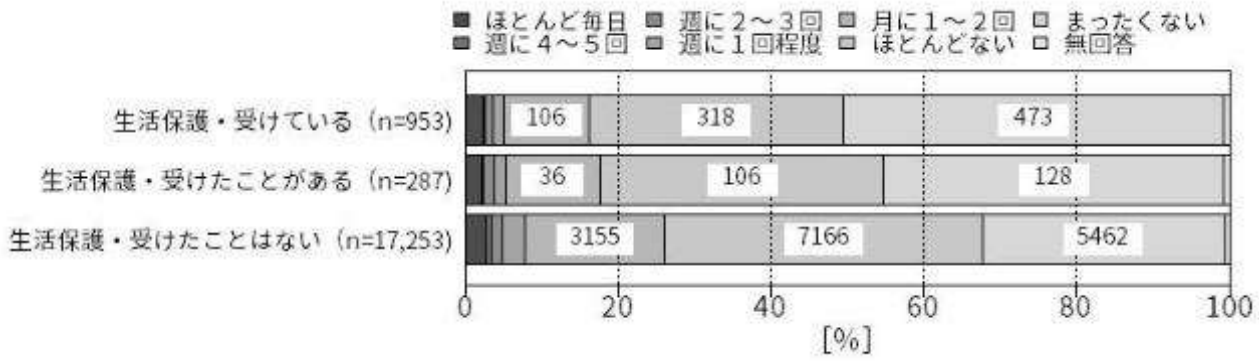


図 142. 生活保護の受給別に見た、保護者と子どもの関わり
（おうちの大人と社会のできごとを話すか）

生活保護を受けたことがある世帯は少数であったため傾向を述べることはできない。生活保護を受けている世帯では、おうちの大人の人とニュースなど社会のできごとについて話し合うことが「まったくない」と回答した子どもが 20.8%に対し、生活保護を受けたことがある世帯では 33.3%、生活保護を受けたことがない世帯では 18.2%であった。

生活保護の受給別に見た、保護者と子どもの関わり（おうちの大人と文化活動をするか）
（保護者票　問 30(3)⑤ × 子ども票　問 10⑨）

＜大阪市 24 区＞



＜大阪市大正区＞

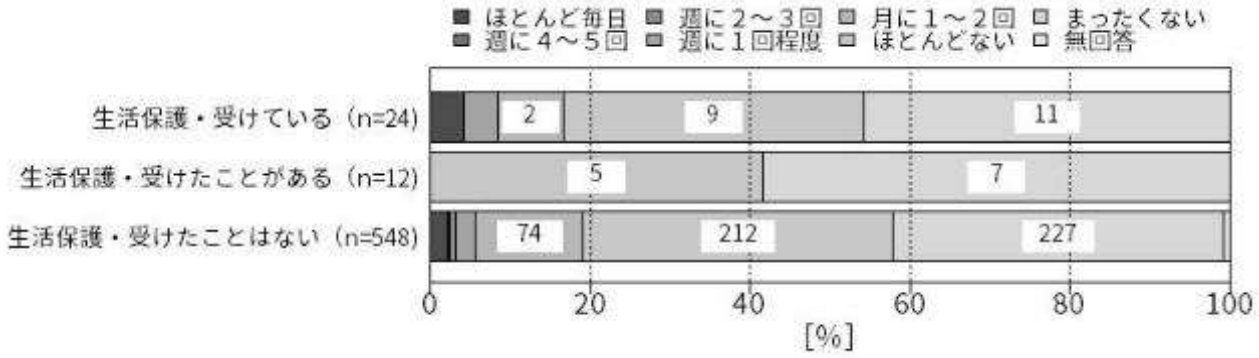
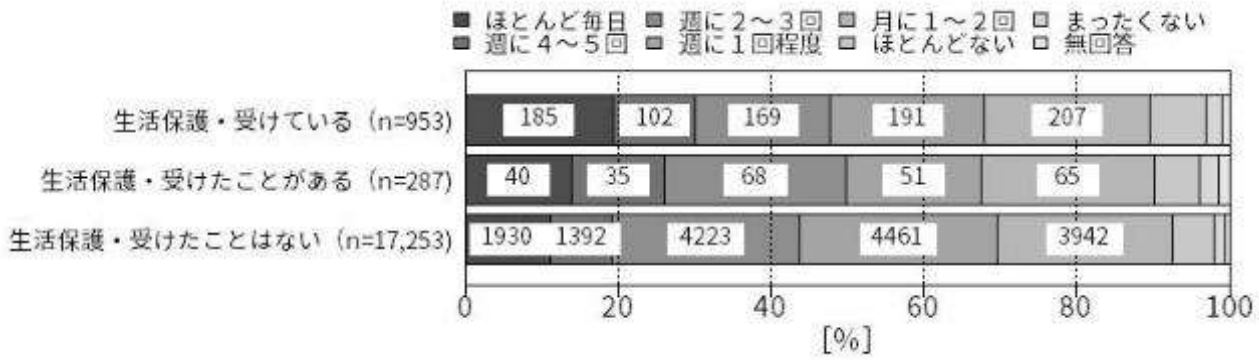


図 143. 生活保護の受給別に見た、保護者と子どもの関わり
（おうちの大人と文化活動をするか）

生活保護を受けたことがある世帯は少数であったため傾向を述べることはできない。生活保護を受けている世帯では、おうちの大人の人と文化活動をすることが「まったくない」と回答した子どもが 45.8%に対し、生活保護を受けたことがある世帯では 58.3%、生活保護を受けたことがない世帯では 41.4%であった。

生活保護の受給別に見た、保護者と子どもの関わり（おうちの大人と一緒に外出するか）
（保護者票　問 30(3)⑤ × 子ども票　問 10⑩）

＜大阪市 24 区＞



＜大阪市大正区＞

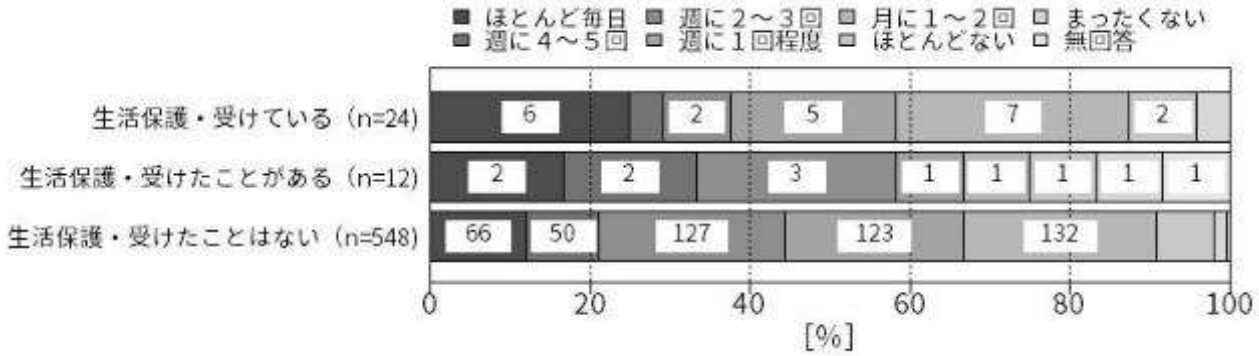
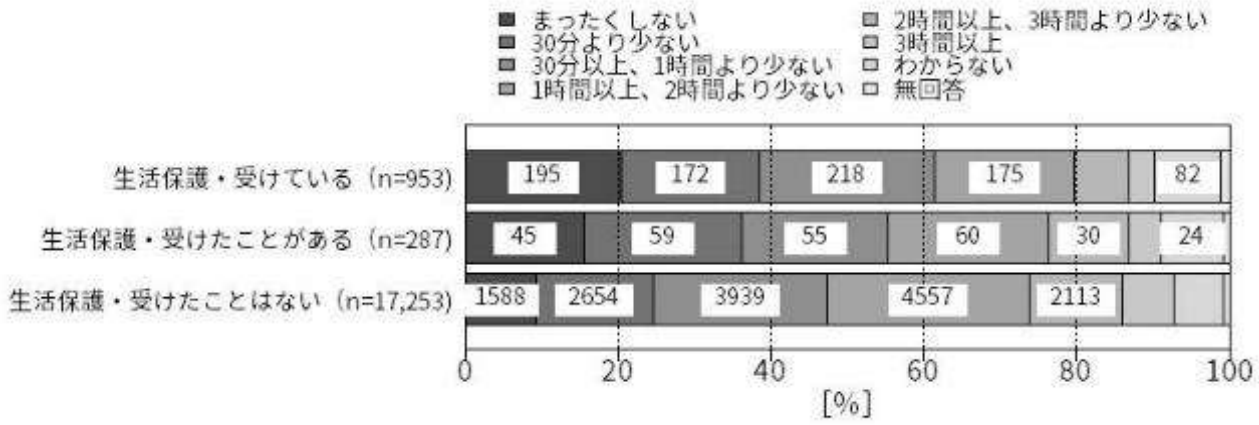


図 144. 生活保護の受給別に見た、保護者と子どもの関わり
（おうちの大人と一緒に外出するか）

生活保護を受けている世帯では、おうちの大人の人と一緒に外出することが「まったくない」と回答した子どもが 4.2%に対し、生活保護を受けたことがある世帯では 8.3%、生活保護を受けたことがない世帯では 1.6%であった。

生活保護の受給別に見た、授業以外の勉強時間（保護者票　問 30(3)⑤ × 子ども票　問 14）

＜大阪市 24 区＞



＜大阪市大正区＞

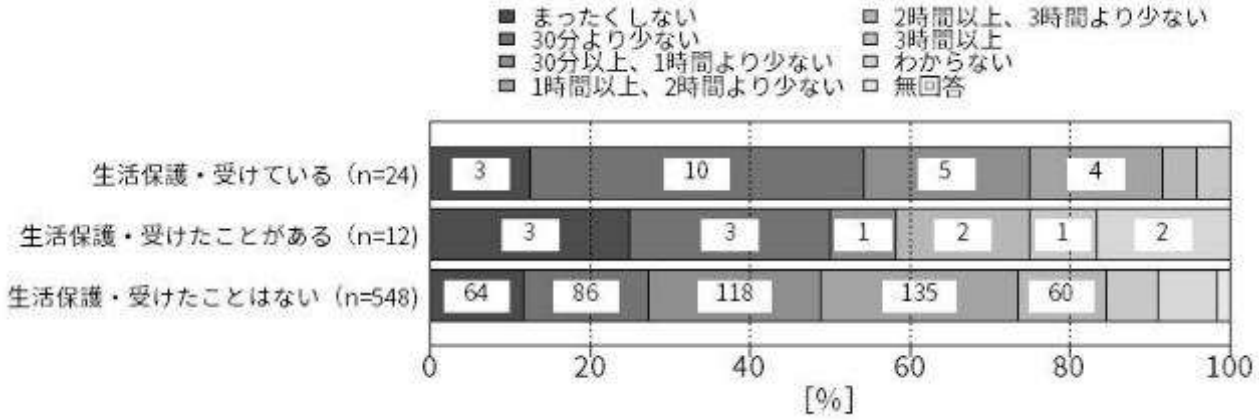
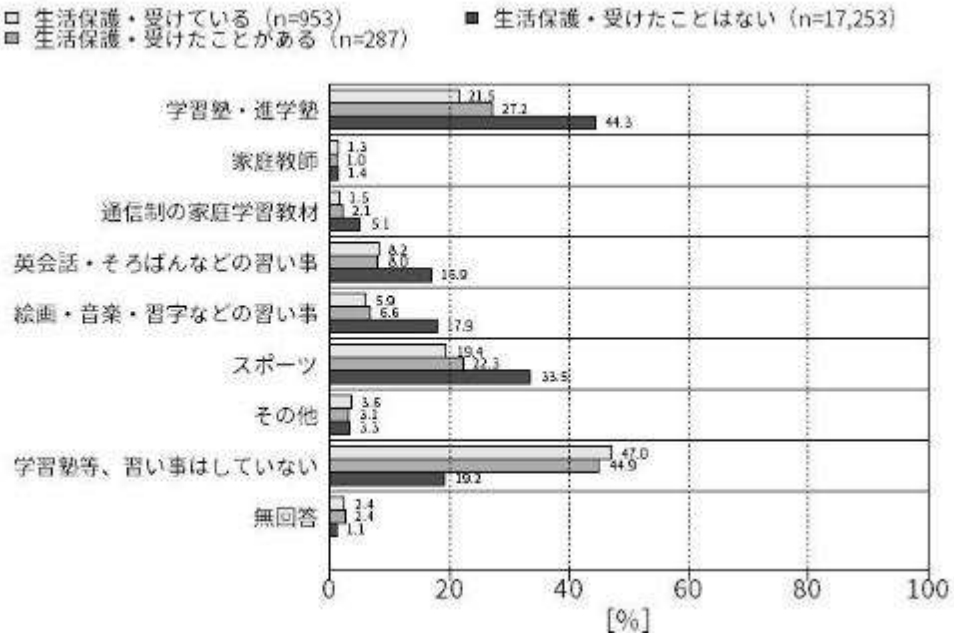


図 145. 生活保護の受給別に見た、授業以外の勉強時間

生活保護を受けている世帯では、授業時間以外に勉強を「まったくしない」と回答した子どもが 12.5%に対し、生活保護を受けたことがある世帯では 25.0%、生活保護を受けたことがない世帯では 11.7%であった。

生活保護の受給別に見た、学習塾等の利用状況（保護者票　問 30(3)⑤ × 子ども票　問 15）

＜大阪市 24 区＞



＜大阪市大正区＞

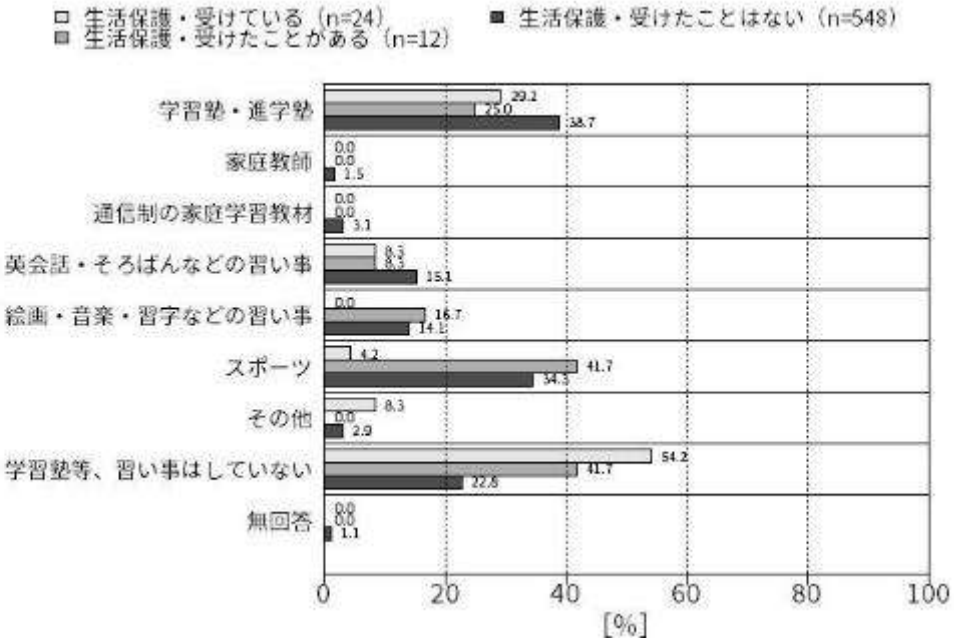
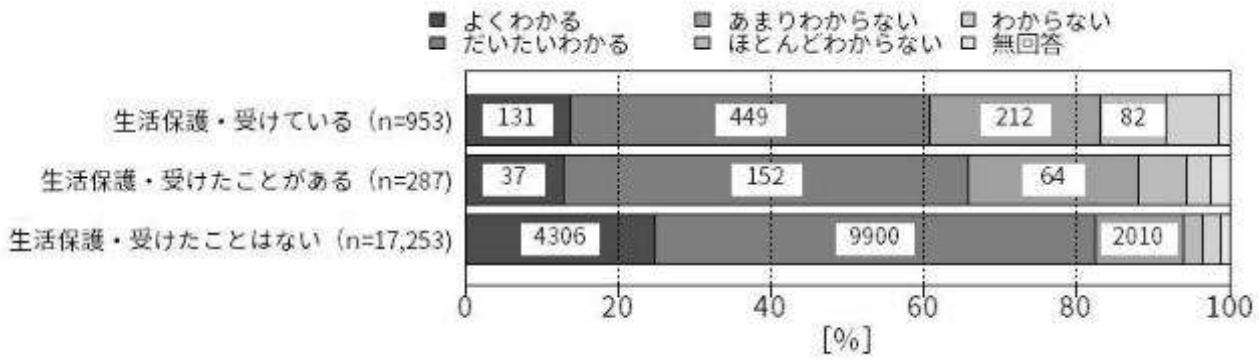


図 146. 生活保護の受給別に見た、学習塾等の利用状況

生活保護を受けている世帯では、「学習塾等、習い事はしていない」と回答した子どもが 54.2%に対し、生活保護を受けたことがある世帯では 41.7%、生活保護を受けたことがない世帯では 22.8%であった。

生活保護の受給別に見た、学習理解度（保護者票　問 30(3)⑤ × 子ども票　問 18）

＜大阪市 24 区＞



＜大阪市大正区＞

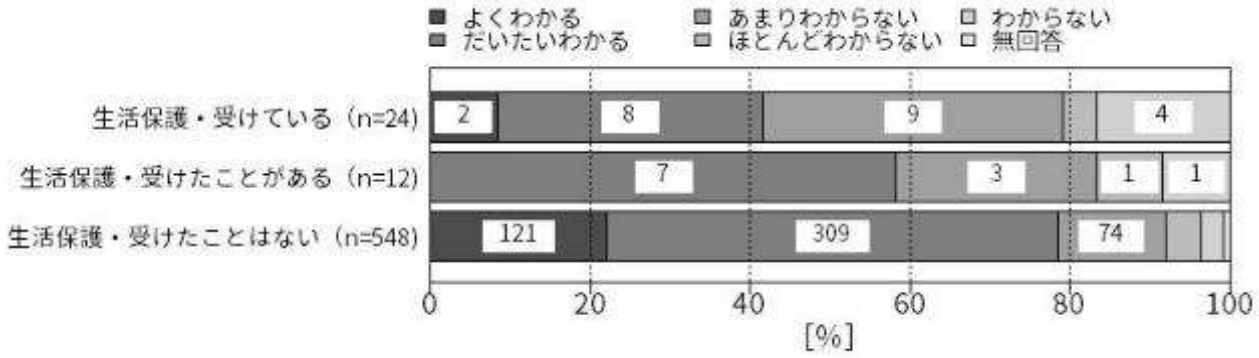


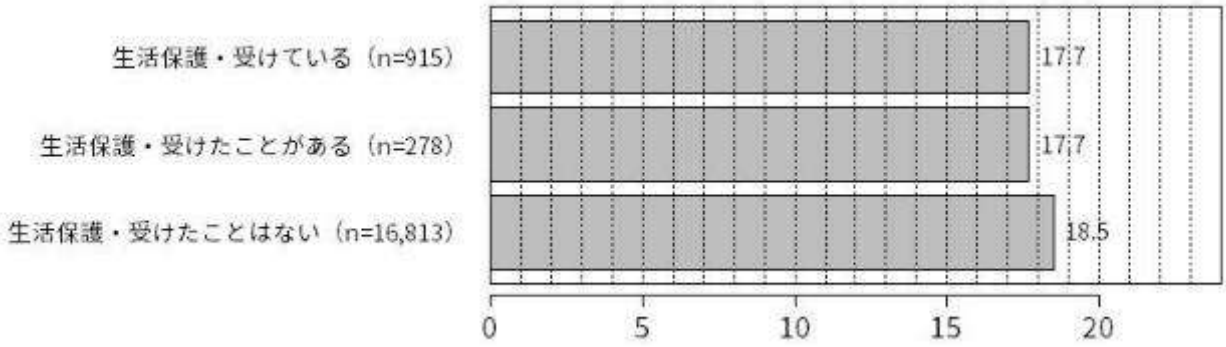
図 147. 生活保護の受給別に見た、学習理解度

生活保護を受けている世帯では、学校の勉強を「わからない」と回答した子どもが 16.7%に対し、生活保護を受けたことがある世帯では 8.3%、生活保護を受けたことがない世帯では 2.9%であった。

生活保護の受給別に見た、子ども自己効力感（セルフ・エフィカシー）
（保護者票　問 30(3)⑤ × 子ども票　問 26(1)～(6)）

※「自分に自信がある」「自分の考えをはっきり相手に伝えることができる」「大人は信用できる」「自分の将来の夢や目標を持っている」「将来のためにも、今、頑張りたいと思う」「将来、働きたいと思う」の 6 項目について、それぞれ 4 段階で評価させ、その値を合計した得点を、セルフ・エフィカシー得点とした。得点が高いほど、自己効力感（セルフ・エフィカシー）が高いことを表す。

＜大阪市 24 区＞



＜大阪市大正区＞

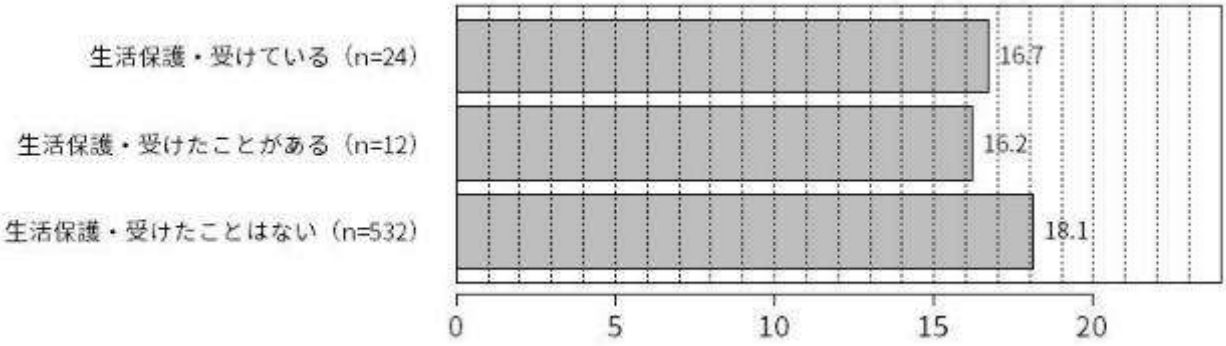
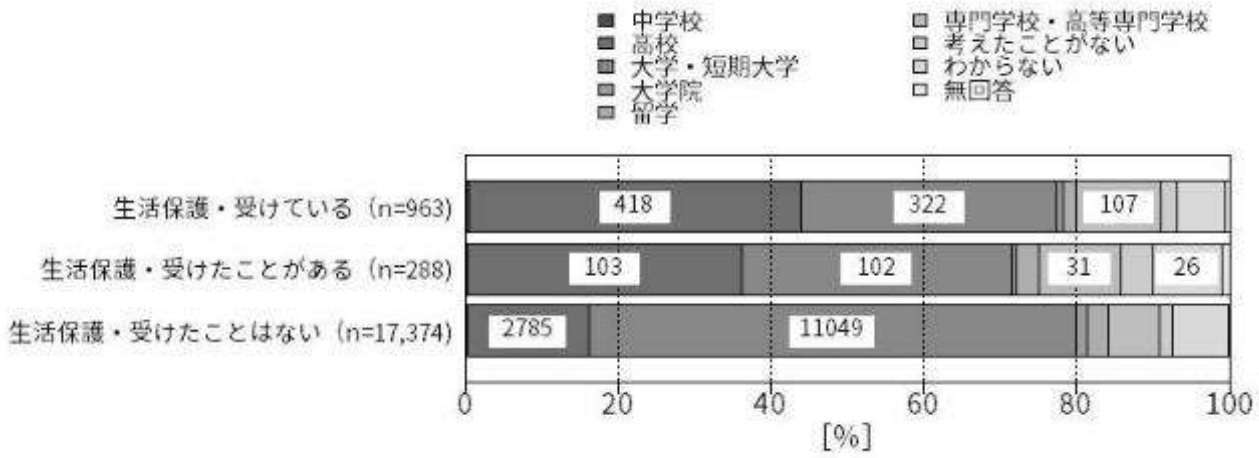


図 148. 生活保護の受給別に見た、子ども自己効力感（セルフ・エフィカシー）

生活保護を受けている世帯では、子どもの自己効力感（セルフ・エフィカシー）の平均点が 16.7 点に対し、生活保護を受けたことがある世帯では 16.2 点、生活保護を受けたことがない世帯では 18.1 点であった。

生活保護の受給別に見た、子どもに希望する進学先
（保護者票　問 30(3)⑤ × 保護者票　問 15）

＜大阪市 24 区＞



＜大阪市大正区＞

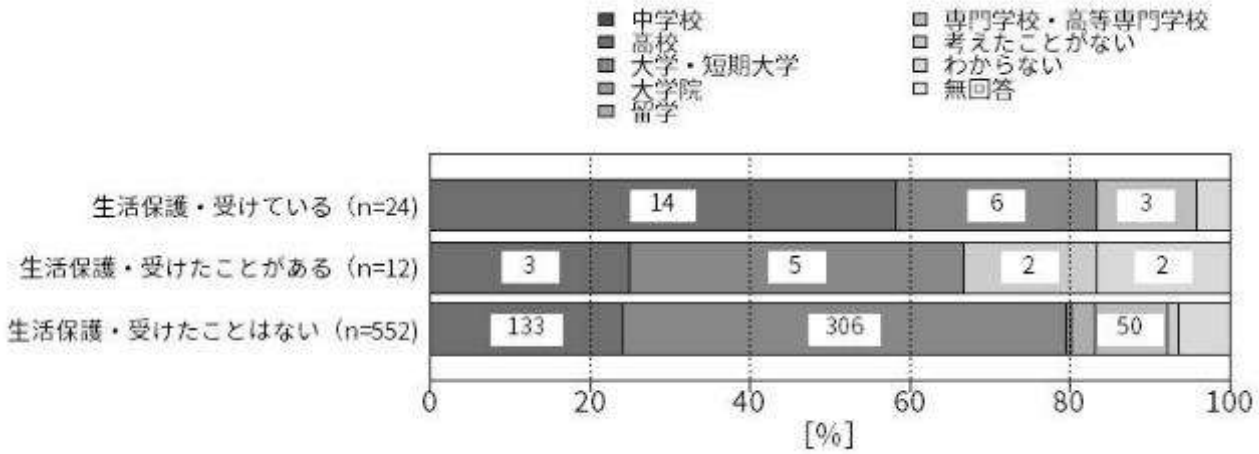
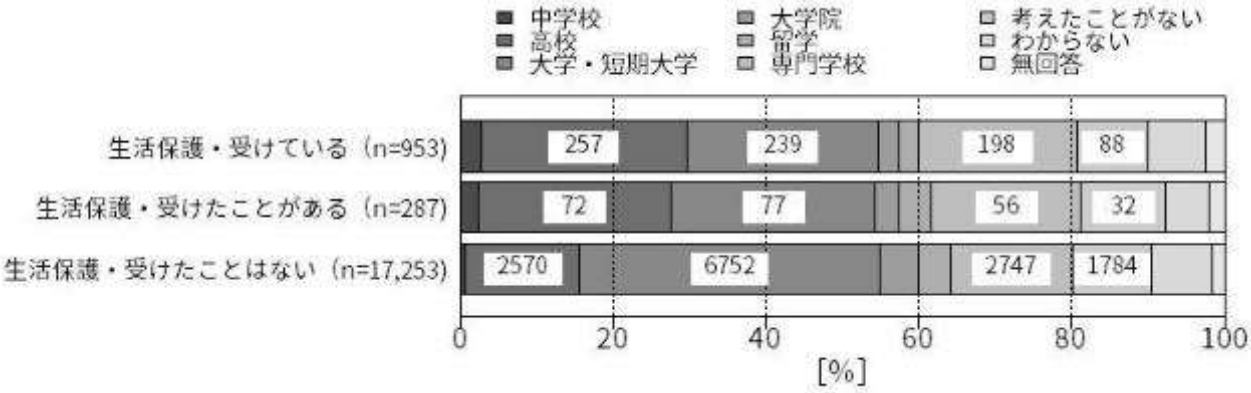


図 149．生活保護の受給別に見た、子どもに希望する進学先

生活保護を受けている世帯では、子どもに希望する進学先を「大学・短期大学」と回答した保護者が 25%に対し、生活保護を受けたことがある世帯では 41.7%、生活保護を受けたことがない世帯では 55.4%であった。

生活保護の受給別に見た、希望する進学先（保護者票　問 30(3)⑤ × 子ども票　問 27）

＜大阪市 24 区＞



＜大阪市大正区＞

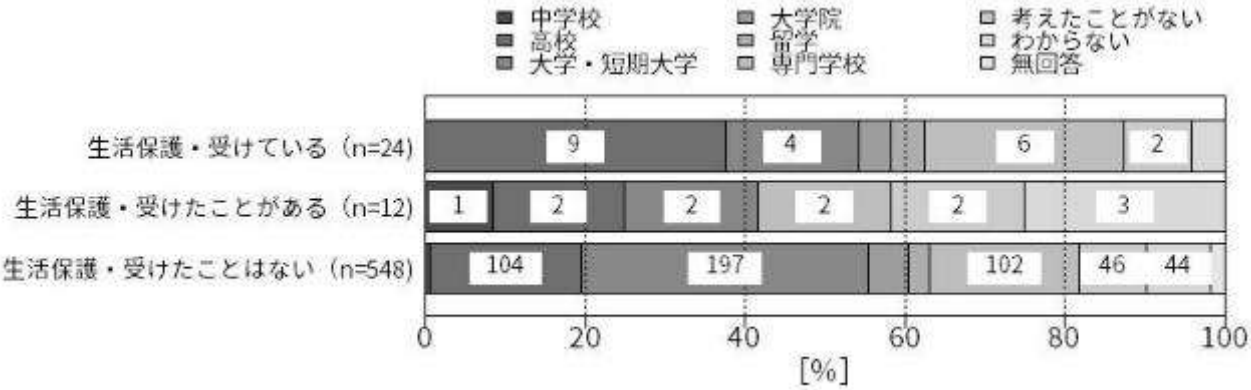
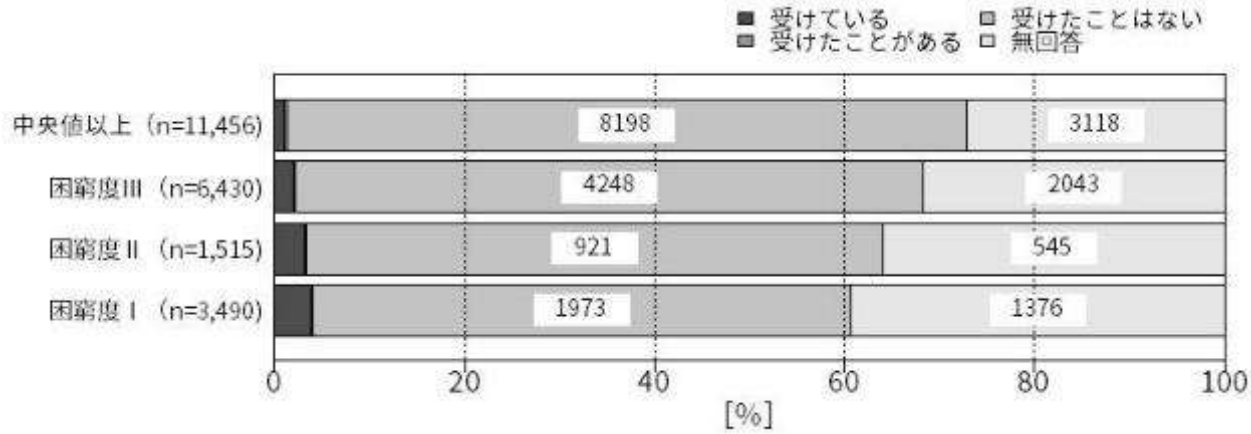


図 150. 生活保護の受給別に見た、希望する進学先

生活保護を受けている世帯では、希望する進学先を「大学・短期大学」と回答した子どもが 16.7%に対し、生活保護を受けたことがある世帯では 16.7%、生活保護を受けたことがない世帯では 35.9%であった。

困窮度別に見た、公的年金（遺族年金、障がい年金）（保護者票　問 30(3)⑦）

＜大阪市 24 区＞



＜大阪市大正区＞

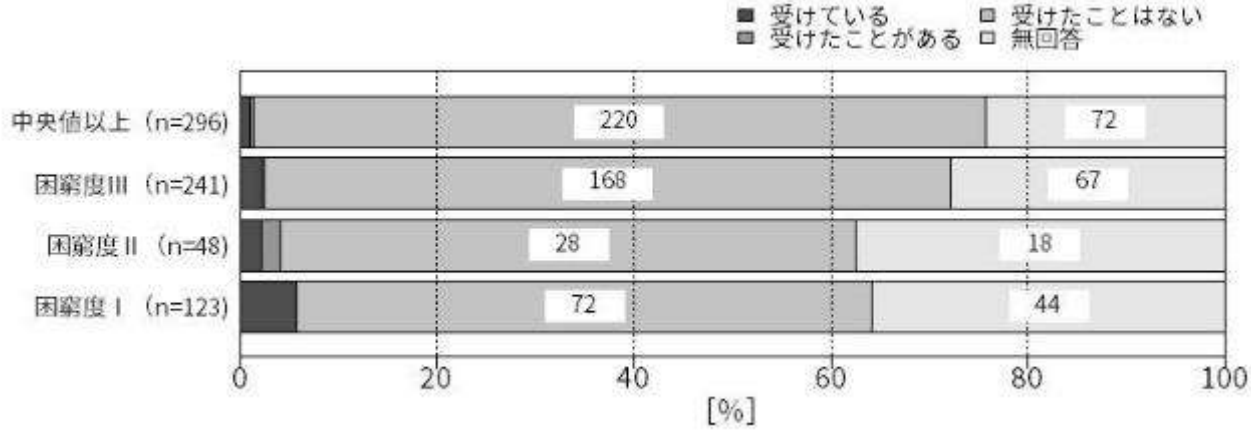
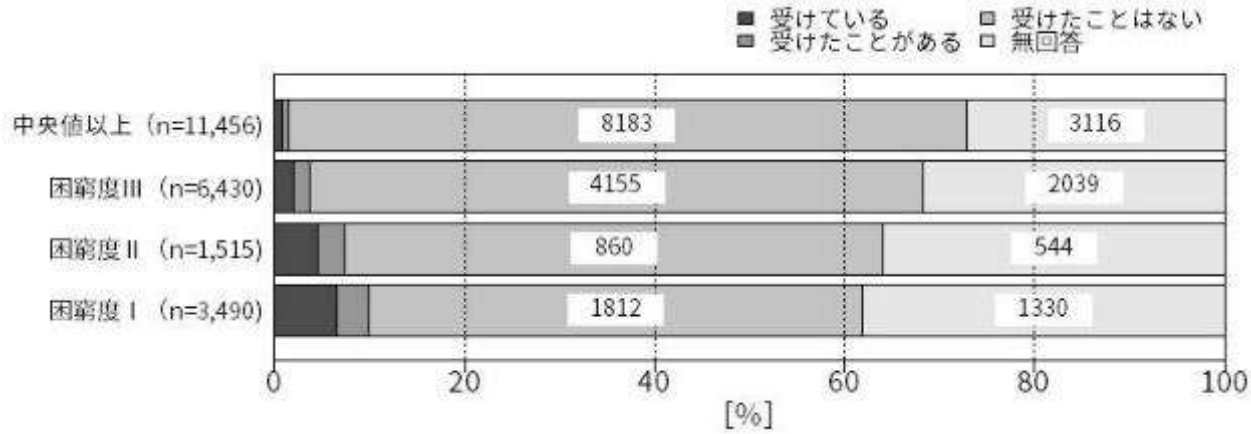


図 151. 困窮度別に見た、公的年金（遺族年金、障がい年金）

困窮度別に遺族年金や障がい年金といった公的年金の受給率を見ると、困窮度Ⅰ群においては「受けている」と回答した人は 5.7%であった。

困窮度別に見た、養育費（保護者票　問 30(3)⑨）

＜大阪市 24 区＞



＜大阪市大正区＞

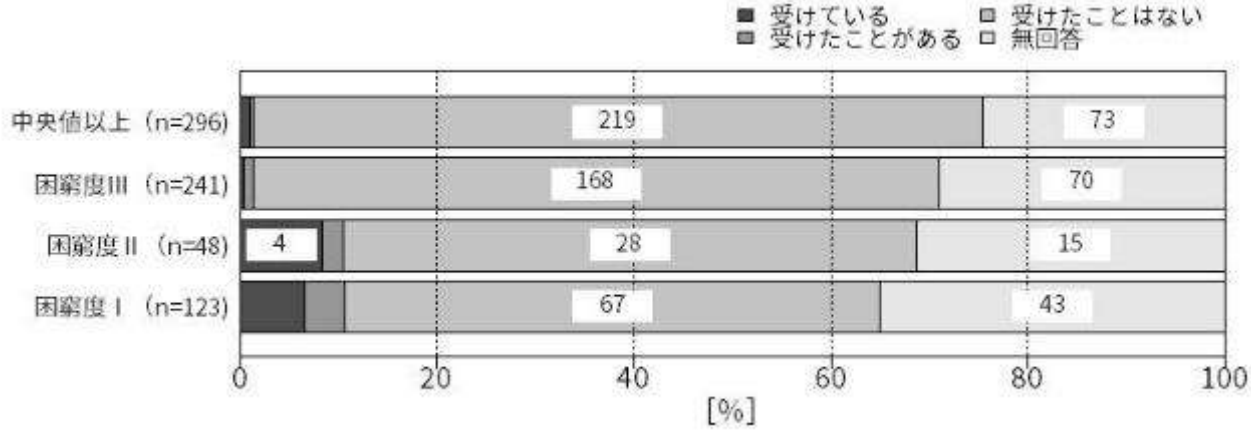


図 152. 困窮度別に見た、養育費

困窮度別にの受給率を見ると、困窮度Ⅰ群において養育費は「受けている」と回答した人は 6.5%であった。

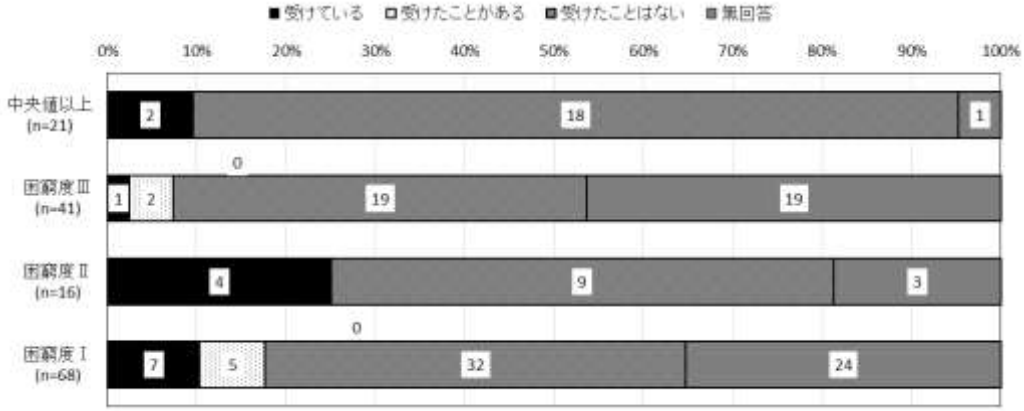
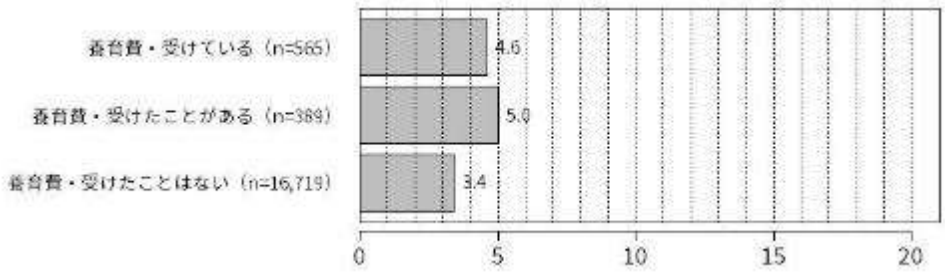


図 152 の補足図. 困窮度別に見た、養育費（ひとり親）

養育費の受給別に見た、経済的な理由による経験の該当数の平均
（保護者票　問 30(3)⑨ × 保護者票　問 7）

＜大阪市 24 区＞



＜大阪市大正区＞

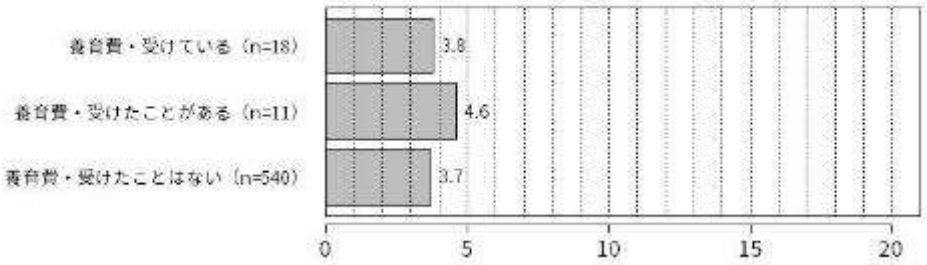
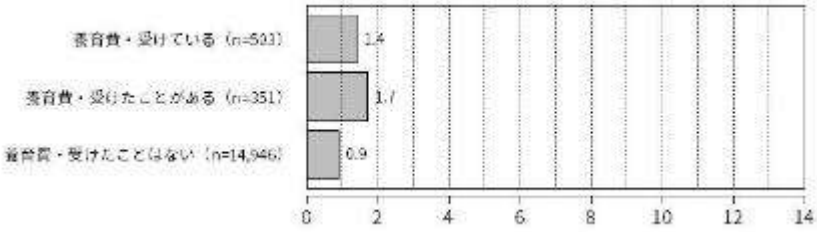


図 153. 養育費の受給別に見た、経済的な理由による経験の該当数の平均

養育費を受けている世帯、養育費を受けたことがある世帯ともに少数であったため傾向を述べることはできない。養育費を受けている・受けたことがある世帯では、経済的な理由による経験の該当数平均はそれぞれ 3.8 個、4.6 個であった。

養育費の受給別に見た、子どもへの経済的な理由による経験の該当数の平均
（保護者票　問 30(3)⑨ × 保護者票　問 13）

＜大阪市 24 区＞



＜大阪市大正区＞

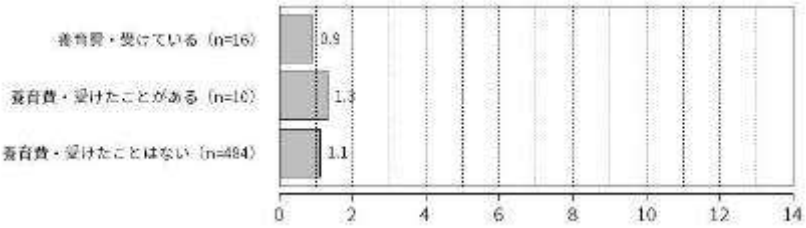


図 154. 養育費の受給別に見た、子どもへの経済的な理由による経験の該当数の平均

養育費を受けている世帯、養育費を受けたことがある世帯ともに少数であったため傾向を述べることはできない。養育費を受けたことがある世帯では、経済的な理由による経験の該当数平均は 1.3 個であった。